

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ			担当教員 丹木 博一, 小林 宏子, 島村 絵里子	
開講期	春	分類	必修		
単 位	2	標準受講年次	1年		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要			学修成果獲得の観点 1-①, 2-①, 3-④
	1, 2, 3	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。			

担当教員の 連絡情報	担当教員	研究室	オフィスアワー
	丹木 博一	4214	P.19～P.20 を参照のこと
	小林 宏子	4204	P.19～P.20 を参照のこと
	島村 絵里子	4号館2階 講師控室	授業前後

キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味
授 業 の 概 要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。
達成目標 (授業の目的)	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ① 人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ② 人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③ 社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④ 生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。
評価方法	① 毎回の事前課題の提出 (20%)、② 授業毎のリアクションペーパー (28%)、③ 理事長による講演へのリアクションペーパー (2%)、④ 中間課題 (1,000～1,200 字の小レポート) (20%)、⑤ 定期試験 (選択式問題と小論文) (30%)
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×10 回。以下の「準備学修」欄に記載の「要約」の課題を授業前日までに Moodle にて提出。 ② リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。2%×14 回 ③ 理事長による講演へのリアクションペーパー：講演を聞き、重要なポイントを指摘して、その意味を説明できること。2% ④ 中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。20% 「他者との共生」について人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。Moodle にて提出。 ⑤ 定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。30% <ul style="list-style-type: none"> (i) 選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10% (ii) 700～800 字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、その書誌データを明記し、内容のポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。20%
準備学修 の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	人間学Ⅰの概要・目的・進め方・評価法 キリスト教的人間観の特徴・「愛」	講義・グループ分け リアクションペーパー	事前に教科書 pp.1～27 を通読しておく。
2	テーマ1 いのちを支えるものとのかかわり ① 私たちのいのちは何によって支えられているか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.29～44 を通読し、人間の命を尊重すべき理由に関する筆者の意見を 400 字程度で要約する。
3	テーマ1 ① 生きるために必要なことを満たすために私たちは何をなすべきか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.45～50 を通読し、マズローの理論を 400 字程度で要約する。
4	テーマ2 成長発達を促すものとのかかわり ① 成長の過程にはどのようなかかわりがあるだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.51～66 を通読し、青春期の発達課題に関する筆者の意見を 400 字程度で要約する。
5	テーマ2 ② かかわりをとおして自分は何のような成長を遂げたのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.67～71 を通読し、アドラーの理論を 400 字程度で要約する。
6	テーマ3 他者へのかかわりと自己理解の形成 ① 私たちのアイデンティティはどのように形成されるのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.73～84 を通読し、ジェンダーアイデンティティに関する筆者の意見を 400 字程度で要約する。
7	テーマ3 ② 差別にどう向き合えばよいのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.85～96 を通読し、差別撤廃に関する議論を 400 字程度で要約する。
8	テーマ4 他者へのかかわりにおける自由と責任 ① 自由にはどのような種類があるか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.97～113 を通読しておく。 中間レポート提出。
9	テーマ4 ② 自由と責任はいかなる関係にあるか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.102～104 に基づき、ギョメの自由について 400 字程度で要約する。
10	テーマ4 ③ 人間は環境に対していかなる責任を持つのか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.114～117 を通読し、環境に対する責任について 400 字程度で要約する。
11	テーマ5 人生の苦しみの意味と希望 ① 人間は、いかなる苦しみに対し、どのように向き合っているか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.119～131 を通読し、死に対する態度について 400 字程度で要約する。
12	テーマ5 ② 人生に苦しみがあることは何を意味するのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.132～138 を通読し、苦しみの経験の意味を 400 字程度で要約する。
13	テーマ5 ③ 希望を持って生きていく可能性はどこに求められるだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	期末試験の準備。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	総まとめ ※期末試験に対するコメント	講義 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書 pp.8-27 をもう一度ていねいに読んでおく。

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』（事前購入のこと）
参考書	『新約聖書』（授業初回時に無料配布） ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫）
その他 特記事項	14回の授業に加え、上智学院理事長による講演が行われるので、必ず出席すること。

科目名	SCH101: 人間学Ⅱ				担当教員	岩崎 明子	
開講期	秋	開講時限	木2限		研究室	4213	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	1,2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				1-①, 2-①	
キーワード	関わりの中で成長する人間、対話、和解とゆるし、生きがい、希望						
授業の概要	人間学Ⅰに引き続き、かかわりを生きる人間の諸側面を考えていく。キリスト教ヒューマンイズムの精神に基づいた人間学が求める「あるべき人間の姿とは何か」を事例や新聞記事や記録ビデオ、或いは映像の教材を視聴し、現代社会や世界が抱えている様々な人間の問題に触れながら考察していく。毎回のテーマは、事前に提示された記事を精読し、考察を書きとめそれをもとに意見交換後、まとめを発表する形式で深めていく。						
達成目標(授業の目的)	自分を取り巻く世界の現実を深く知って、家族、社会、国家、世界の中での人間の相互理解と共存、平和、いのちの尊厳の意義をより深く理解し、自らの成長課題とともに「一人も取り残されない世界」とその将来に対する展望を見出していく。						
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ① 現代社会の様々な事例から人間の問題について深く考察できる。 ② 記事、映像の事例に対する自分の意見を論理的に文章にまとめられる。 ③ 話し合いでは、事例を自分自身との関連性だけで解釈するにとどめず、人間学Ⅰでの学びや客観的資料を基に、問題を多角的に考察し、他者の意見を傾聴し、話し合いの進行や意見のまとめや発表をできるようになる。 ④ 中間レポートや期末レポートでは、人間の問題のテーマに沿って、現代社会の問題と関連するサブトピックを選択し、必要なりサーチをした後で、小論文形式にまとめる。 ⑤ 期末課題のテーマでスピーチを行う。 						
評価方法	コメントシート、ノート提出(35%)、授業での発表・意見交換(15%)、中間レポート1,200字～2,000字(15%)、期末レポート2400字～4000字(20%)、スピーチ(15%)						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ① コメントシートとノート：問題意識をもち事例を考察し、客観的な視点も含めた文章を書いている。様々な教材からの確かな引用をして、論理的な文章を書いている。 ② 発表・意見交換：コーディネーターや記録、発表の役割を積極的に果たし、課題に適した質疑応答を行うことができ、話し合いを深めることに貢献する。 ③ 中間レポート：2回から7回までの講義の内容を参照しつつ、現代家族または現代社会の問題を取り上げリサーチ後、小論文形式(的確な主題、序論、本論、参照例、考察、結論、資料引用などがある)に明確にまとめている。 ④ 期末レポート：テーマを選択後、それに関する書籍を2冊以上参照し、アカデミックのレポートの書き方に従って、自分の考察を論理的にまとめている。 ⑤ スピーチ：自分の期末課題の主題を、十分な根拠と、的確な例を取り上げてアカデミックに、しかし独自性をもって説明し発表している。(10分間) <p>尚、期末レポートの課題提出が無い場合は、発表は評価の対象とならない。また、課題が提出されても通常授業への出席が少ない場合は単位が付与されない場合がある。</p>						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	議題の概要説明と自己紹介、キリスト教ヒューマンイズムと対話を通しての学び	講義、DVD、討議 コメントシート	人間学Ⅰで興味を持ったテーマに関する意見を書く
2	家族とのかかわり(1) 一大家族の問題ー	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題についての考察を文章にまとめる

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
3	家族とのかかわり（2） —教育と成長の問題—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
4	社会とのかかわり（1） —個人の人権と尊厳とは—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
5	社会とのかかわり（2） —心を育てる教育とは—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
6	社会とのかかわり（3） —福祉的なコミュニティとは—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
7	世界とのかかわり（1） —差別意識 vs 共生社会—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する 中間レポートの提出期限
8	世界とのかかわり（2） —貧困と格差 vs 分かち合い—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する 考察ノートの提出（1）
9	世界とのかかわり（3） —争い vs 和解とゆるし—、中間課題返却と講評	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する 期末課題テーマ提出
10	いのちの意義について（1） —自死をふせぐために—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
11	いのちの意義について（2） —ホスピス・終末医療の現場から—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
12	期末課題の発表（1） 発表の講評	口頭発表、質疑応答 コメントシート	発表のレジメ用意 期末課題の提出期限
13	期末課題の発表（2） 発表の講評	口頭発表、質疑応答 コメントシート	発表のレジメ用意 考察ノートの提出（2）
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	期末課題の発表（3）、発表の講評、期末課題の返却および講評、まとめ	口頭発表、質疑応答 討議、	発表のレジメ用意 課題返却後振り返り

テキスト	人間学 I テキスト（上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』）を参照する。 その他、新聞記事等のプリントを配布する。
参考書	ハイメ・カスタニェダ＋井上英治編『現代人間学』（春秋社）
その他 特記事項	問題意識をもって各資料を通読し、話し合いでは互いに相手の意見を傾聴し学び合う機会を大切にできる学生を歓迎します。

科目名	SCH101: 人間学Ⅱ (S)				担当教員	Thomas	
開講期	春	開講時限	木3限		研究室	4211	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	1, 2, 3	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。				1-①, 2-①, 3-④	
キーワード	Christian humanism, social teachings of the Church, human dignity, Christian morality						
授業の概要	This course introduces Christian humanism from the perspective of the Bible. It will focus on human being's relation to the supernatural, with oneself, and with society in the light of the Bible and the social teaching of the Catholic Church. Students are required to read the handout prior to the lesson and prepare their thoughts and reflections on the questions given in the preview sheet. After the lesson, based on the lecture and the discussion in class, students will write a reaction paper personalizing and expressing the social implications of the issue discussed in class.						
達成目標(授業の目的)	The general goals of this course are to understand (1) the Christian perspectives on creation, (2) human being's thirst for transcendence, (3) human dignity, (4) Christian morality, (5) and Christianity and social responsibility.						
到達目標(学修成果)	By the end of this course students will <ul style="list-style-type: none"> • have a deeper understanding of the Christian perspectives on the universe • know more about Christian morality, Christian perspectives on human being • know about the foundations of Christian morality • know about some of the social teachings of the Catholic Church • be able to think critically on human person, social issues and to form a personal opinion 						
評価方法	Class participation (30%), Preview sheet (20%), Reaction paper (30%), Final report (20%)						
評価基準	To be distributed at the first class.						
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction to the course materials, class policies and teaching materials	lecture, discussion, Q&A	read syllabus
2	What is Christian humanism? Biblical perspective	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
3	Human dignity, creation narrative, the nature of human being	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
4	Relation between God and human being, God the father of all	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
5	Man and anxiety, Luke 12:13-34	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
6	Man's struggle with self-image, hypocrisy vs sincerity	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
7	Moral superiority, judging others, Mathew 7:1-6, Luke 6:37-42	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
8	Law and man, the spirit of the law, Luke 13:10-17, Mathew 12:1-8	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
9	Biblical concept of justice, Mathew 20:1-16	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	Biblical concept of marriage, faithfulness, divorce	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
11	Biblical understanding of forgiveness	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
12	Social justice, option for the marginalized	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
13	Christianity and human rights	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	True love, universal family	lecture, reading, group work, writing	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion

テキスト	Materials adapted from the Bible and the social teachings of the Catholic Church will be distributed in class as teaching materials.
参考書	The Bible https://www.biblestudytools.com/nrs/ https://www.bible.com/ja/
履修条件、前提科目	TOEIC score:400 or above

科目名	HST201: 歴史学 A				担当教員	森下 園		
開講期	春	開講時限	火3限		研究室	4202		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	歴史学の歴史、近代歴史学の成立、歴史理論							
授業の概要	学問としての「歴史学」が近代にどのように成立したのか、「歴史学」は西欧の哲学や思想とどのような関係にある学問なのかを学ぶ。特に「唯一絶対の歴史」にひそむ西欧中心主義と男性中心の歴史観の問題および歴史を記述する権力の問題などについて考えていく。「世界史」の講義ではないので、注意すること。							
達成目標(授業の目的)	①歴史学とはどのような学問でありどのように成立したのかを理解するために予習し、積極的に質問・発言できる。 ②歴史認識をめぐる議論や背景となる思想との関係について、講義内容をまとめ、口頭で発表できる。 ③専門用語・学問的な概念を用いて講義の要点を自分なりの言葉で記述できる。							
到達目標(学修成果)	①次回授業プリントや参考資料を読み、事典・参考書で調べ、不明な点の質問や意見表明を授業でできるようになる。 ②講義内容を自分の言葉でまとめ、次回講義の冒頭で発表することで、各回のポイントを口頭で説明できるようになる。 ③専門用語・学問的な概念を用いて、講義の要点をレポートにまとめることができるようになる。							
評価方法	①授業内での質問・発言(初回・最終回を除く): 4%×12回=48% ②授業冒頭での口頭発表(5分): 20%(回数は受講人数によるが1~2回を予定) ③Moodle提出の期末レポート(約2000字): 32%							
評価基準	①授業内での質問・発言: 予習の上で質問をしているか、積極的に意見を述べているか ②授業冒頭での口頭発表: 授業内容を理解しているか、要点を押さえているか ③期末レポート: 提出期限と書式を守っているか、講義内容を理解し、要点専門用語などを正しく用いてまとめているか、必要に応じて参考資料を用いて調べてあるか							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	歴史学の諸問題、研究倫理について、授業冒頭でのまとめ発表のわりあて	講義、質疑応答	Moodle登録、第2回授業プリントの予習
2	歴史学の歴史(1)古代・中世ヨーロッパの歴史記述	講義、質疑応答	第2回授業内容のまとめ 第3回授業プリントの予習
3	歴史学の歴史(2)中国と日本の史書	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第3回授業内容のまとめ 第4回授業プリントの予習
4	歴史学の歴史(3)啓蒙時代の歴史観	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第4回授業内容のまとめ 第5回授業プリントの予習
5	歴史学の歴史(4)ランケ史学—近代歴史学の登場	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第5回授業内容のまとめ 第6回授業プリントの予習
6	歴史学の歴史(5)アナール派—民衆の歴史をどう記述するか	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第6回授業内容のまとめ 第7回授業プリントの予習
7	歴史学の歴史(6)歴史学の作法—史料批判と先行研究の用い方、レポートについて	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第7回授業内容のまとめ 第8回授業プリントの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	理論（1）構造主義とポスト構造主義－西欧は世界をどうとらえてきたか	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第8回授業内容のまとめ 第9回授業プリントの予習
9	理論（2）言語論的転回が歴史学につきつけたもの	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第9回授業内容のまとめ 第10回授業プリントの予習
10	理論（3）文学とポストコロニアリズム－記述する権力は誰にあるのか	前回のまとめ発表、講義、質疑応答、	第10回授業内容のまとめ 第11回授業プリントの予習
11	理論（4）歴史修正主義と社会構築主義－「私たちの歴史」はどうあるべきなのか	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第11回授業内容のまとめ 第12回授業プリントの予習
12	理論（5）ジェンダーと歴史学－歴史記述者のジェンダーギャップ	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	第12回授業内容のまとめ 第13回授業プリントの予習
13	研究紹介 マルク・ブロック『王の奇跡』とナタリー・Z・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール』	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	期末レポートの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held *試験期間に期末レポートを提出			
14	歴史学の諸問題のまとめ、レポートの講評	講義、質疑応答、レポートの講評、意見交換	これまでの復習

テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle の「2021 短大部 歴史学 A」で配付する。
参考書	J. H. アーノルド『1冊でわかる歴史学』（岩波書店）

科目名	HST202: 歴史学 B				担当教員	森下 園	
開講期	秋	開講時限	火 5 限		研究室	4202	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①	
キーワード	歴史学、史料論、メディアと歴史、国際歴史認識問題、歴史教育						
授業の概要	学問としての「歴史学」が近代にどのように成立したのか、「歴史学」はどんな史料をどのように用いて研究されるのか、歴史認識をめぐりどんな問題がおきているのか、歴史教育はどうあるべきかなどについて学ぶ。特に近代国家のための「物語」として創出された「他者を排除する歴史」の問題について考えていく。「世界史」の講義ではないので、注意すること。						
達成目標 (授業の目的)	①歴史学とはどのような学問であるのかを理解するために予習し、積極的に質問・発言できる。 ②史料を読み込むために何が必要なのか理解し、史料の解説を試みることができる。 ③専門用語・学問的な概念を用いてポイントを自分なりの言葉で記述できる。						
到達目標 (学修成果)	①次回授業プリントや参考資料を読み、事典・参考書で調べ、授業で不明な点の質問や意見表明をできるようになる。 ②近世日本または近世英国の手書き史料 (トランスクリプト付き) について、時代背景や史料の性質を調べ、自分なりの解釈をつけて発表できるようになる。 ③専門用語・学問的な概念を用いて、ポイントをレポートにまとめることができるようになる。						
評価方法	①授業内での質問・発言 (初回・最終回を除く) : 4%×12 回=48% ②史料についての発表 (漢文・英語から選択して行う) : 20% ③Moodle 提出の期末レポート (歴史とメディアまたは歴史教育について、約 2000 字) : 32%						
評価基準	①授業内での質問・発言 : 予習の上で質問をしているか、積極的に意見を述べているか。 ②史料についての発表 : 割り当てられた史料の性質や時代背景を調べ、何が書かれているのか説明したうえで、この史料から何がわかるかを説明できているか。史料と活字にされたトランスクリプトをもとに自分で調べる力をみるものである。 ③レポート : 提出期限と書式を守っているか、理解した内容を自分の言葉できちんとまとめてあるか、必要に応じて参考資料を用いて調べてあるか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	歴史学とはどんな学問か、研究倫理について	講義、質疑応答	Moodle 登録、 第 2 回授業プリントの予習
2	史料を読むために (1) 古書体学 史料発表の割り当て	講義、質疑応答	第 3 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
3	史料を読むために (2) 古書冊学、文書形式学、史料の種類について	講義、質疑応答	第 4 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
4	史料を読むために (3) 暦について	講義、質疑応答	第 5 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
5	史料を読むために (4) 図像解釈学と絵画資料	講義、質疑応答	第 6 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
6	史料を読むために (5) オーラルヒストリー	講義、質疑応答	第 7 回授業プリントの予習 史料についての発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	歴史とメディア（1）写本からマス・メディアの登場まで、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	第8回授業プリントの予習 史料についての発表準備
8	歴史とメディア（2）現代メディアがもたらす問題点、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	第9回授業プリントの予習 史料についての発表準備
9	歴史教育（1）国際歴史教科書問題－ヨーロッパ、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	第10回授業プリントの予習 史料についての発表準備
10	歴史教育（2）国際歴史教科書問題－日本と韓国、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	第11回授業プリントの予習 史料についての発表準備
11	歴史教育（3）英国の歴史教育史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	第12回授業プリントの予習 史料についての発表準備
12	震災と歴史史料についての発表	講義、質疑応答	第13回授業プリントの予習 史料についての発表準備
13	研究紹介 ミッシェル・フーコーの『監獄の歴史』と『狂気の歴史』	講義、質疑応答	期末レポート準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held *定期試験期間に期末レポートを提出する			
14	歴史学と史料および歴史教育問題のまとめ、レポートの講評	講義、質疑応答、期末レポートの講評	授業の振り返り、まとめ

テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle の「2021 短大部 歴史学 B」で配付する。
参考書	The National Archives, Palaeography (https://www.nationalarchives.gov.uk/palaeography/default.htm) 森安彦『古文書を読もう』（講談社）

科目名	PHL203: 哲学 A				担当教員	丹木 博一		
開講期	春/秋	開講時限	(春) 月 4 限 (秋) 火 5 限		研究室	4214		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	世界の始原、存在と生成、自己への配慮、アイデアと世界、自然のロゴス							
授業の概要	西洋古代哲学の基本的特徴について理解を深めるとともに、古典的テキストの一つを取り上げ、意見交換を行いながら読めい読み進めることで哲学的思考に慣れ親しむ。							
達成目標 (授業の目的)	西洋古代における哲学的思考の多様な展開を理解することによって、世界と自己に対する哲学的問いを自覚できるようになる。							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> 西洋古代哲学の多様な思想について、その基本を理解し、表現できる。 プラトンのテキストに関心を持ち、テキストの意味を探究できる。 自ら哲学的問いを提起し、その問いについて論理的に考察を進めることができる。 							
評価方法	授業毎の課題 (20%)、授業毎のリアクションペーパー (14%)、中間レポート (2,000 字以上) (30%)、定期試験 (36%)							
評価基準	授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。 リアクションペーパー：講義内容を正しく理解し、問題関心を明記できるかどうか。 中間レポート：プラトン『饗宴』について哲学的問いを提起し、その問いがどのように議論されているかを、自分の言葉で論理的に論述展開できるかどうか。 定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。36% <ul style="list-style-type: none"> (i) 選択式の問題を課す。教科書及び授業内容の理解が正しいかどうか。16% (ii) 700～800 字の小論文を作成してもらう。哲学的な問いの一つを提起し、その問いについて自分の力で考えたことを自分の言葉で展開する。問いが哲学的であり、考察に説得力があるかどうか。20% 							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	世界の始原への問い タレスの「水」	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	教科書①pp.1-14 をていねいに読んでおく。
2	世界の現れに潜む謎 ヘラクレイトスの「火」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.15-28 をていねいに読み、要約を提出。
3	自己を形成する知の意味 ソクラテスの「無知の知」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.58-76 をていねいに読み、要約を提出。
4	存在と知の根拠への問い プラトンの「アイデア」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.77-96 をていねいに読み、要約を提出。
5	プラトン『饗宴』講読第 1 回 エロス神への賛美	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.16-47 をていねいに読んでおく。
6	プラトン『饗宴』講読第 2 回 天のエロス、俗のエロス、宇宙のエロス	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.48-75 についてポイントを整理し、提出。
7	プラトン『饗宴』講読第 3 回 自分の片割れへの欲求	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.76-105 についてポイントを整理し、提出。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	プラトン『饗宴』講読第4回 若さと美しさと徳	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.106-136について ポイントを整理し、提出。
9	プラトン『饗宴』講読第5回 エロスの本性と働き	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.136-164について ポイントを整理し、提出。
10	プラトン『饗宴』講読第6回 哲学とは何か	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.165-193について ポイントを整理し、提出。
11	生成変化をめぐる謎 アリストテレスの「可能態・現実態」	講義・絵本朗読 ディスカッション・リアペ	中間レポート提出。教科書① pp.97-108を読んでおく。
12	自由と習慣 アリストテレスの「エートス」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.108-116をていね いに読み、要約を提出。
13	ストア派の倫理と「アパテイア」 中間レポートに対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.117-132をていね いに読み、要約を提出。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	ヘレニズムとヘブライズムの交流へ 定期試験に対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.165-184をていね いに読んでおく。

テキスト	① 熊野純彦『西洋哲学史―古代から中世へ』（岩波新書） ② プラトン『饗宴』（中澤務訳）（光文社古典新訳文庫）
参考書	納富信留『プラトン哲学への旅―エロスとは何者か』（NHK 出版新書） 内山勝利編『哲学の歴史 第1巻 哲学誕生』（中央公論新社）
その他 特記事項	分からないことがあれば、遠慮なく質問して欲しい。

科目名	PHL204: 哲学 B			担当教員	丹木 博一	
開講期	春/秋	開講時限	金 5 限		研究室	4214
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				1-①, 2-①
キーワード	私と世界、主観と客観、経験と理性、原因と自由					
授業の概要	西洋近代哲学の基本的特徴について理解を深めるとともに、古典的テキストを一つ取り上げ、意見交換を行いながら読めい読み進めることで哲学的思考に慣れ親しむ。					
達成目標 (授業の目的)	西洋近代における哲学的思考の多様な展開を理解することによって、世界と自己に対する哲学的問いを自覚できるようになる。					
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> 西洋近代哲学の多様な思想について、その基本を理解し、表現できる。 ライプニッツのテキストに関心を持ち、テキストの意味を探究できる。 自ら哲学的問いを提起し、その問いについて論理的に考察を進めることができる。 					
評価方法	授業毎の課題 (20%)、授業毎のリアクションペーパー (14%)、中間レポート (2,000 字以上) (30%)、定期試験 (36%)					
評価基準	授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。 リアクションペーパー：講義内容を正しく理解し、問題関心を明記できるかどうか。 中間レポート：ライプニッツ『モノドロロジー』について哲学的問いを提起し、その問いがどのように議論されているかを、自分の言葉で論理的に論述展開できるかどうか。 定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。36% <ul style="list-style-type: none"> (i) 選択式の問題を課す。教科書及び授業内容の理解が正しいかどうか。16% (ii) 700～800 字の小論文を作成してもらう。哲学的な問いを一つ提起し、その問いについて自分の力で考えたことを自分の言葉で展開する。問いが哲学的であり、考察に説得力があるかどうか。20% 					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入：近代と哲学への問い	講義・DVD 視聴・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.1-20 をていねいに読んでおく。
2	私と世界はいかに関係しているか? (1) デカルトの「コギト」	講義・絵本・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.1-20 をていねいに読み、要約を提出。
3	私と世界はいかに関係しているか? (2) スピノザの「様態」	講義・ディスカッションリアクションペーパー	教科書①pp.21-38 をていねいに読み、要約を提出。
4	私と世界はいかに関係しているか? (3) ロックの「タブラ・ラサ」	講義・ディスカッションリアクションペーパー	教科書①pp.39-56 をていねいに読み、要約を提出。
5	私と世界はいかに関係しているか? (4) ライプニッツの「モノド」	講義・写真鑑賞・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.57-74 をていねいに読み、要約を提出。
6	ライプニッツ『モノドロロジー』講読第 1 回 不可識別者同一の原理、多元論	講義・ディスカッションリアクションペーパー	教科書②pp.11-19 をていねいに読んでおく。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	ライプニッツ『モノドロジー』講読第2回 表象、欲求、微小表象、記憶	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.20-30 についてポイントを整理し、提出。
8	ライプニッツ『モノドロジー』講読第3回 理性、精神、矛盾律、充足理由律、神	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.31-39 についてポイントを整理し、提出。
9	ライプニッツ『モノドロジー』講読第4回 力能・認識・意志、可能世界、最善観	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.40-50 についてポイントを整理し、提出。
10	ライプニッツ『モノドロジー』講読第5回 宇宙の鏡、視点と眺望、褻、機械	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.51-63 についてポイントを整理し、提出。
11	ライプニッツ『モノドロジー』講読第6回 魂の不滅、予定調和、神の国	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.64-75 についてポイントを整理し、提出。
12	私と世界はいかに関係しているか? (5) ヒュームの「知覚の束」と「習慣」	講義・DVD視聴・デ ィスカッション・リア クションペーパー	中間レポート提出。教科書① pp.91-106 を読んでおく。
13	私と世界はいかに関係しているか? (6) カントの「因果性のカテゴリー」 中間レポートに対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.123-133 をていね いに読み、要約を提出。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	私と世界はいかに関係しているか? (7) カントの「自由」論 定期試験に対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.123-133 をもう一 度読んでおく。

テキスト	①熊野純彦『西洋哲学史―近代から現代へ』（岩波新書） ②ライプニッツ『モノドロジー 他2篇』（谷川多佳子・岡部英男訳）（岩波文庫）
参考書	池田善昭『ライプニッツ『モノドロジー』（晃洋書房） 小林道夫編『哲学の歴史 第5巻 デカルト革命』（中央公論新社）
その他 特記事項	分からないことがあれば、遠慮なく質問して欲しい。

科目名	REL201: 宗教学 A				担当教員	小林 宏子		
開講期	春/秋	開講時限	(春) 月 3 限 (秋) 月 2 限		研究室	4204		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	聖書、創造、神の似姿、原罪、契約、信仰、約束の地、過越、バビロン捕囚、メシア待望							
授業の概要	旧約聖書と呼ばれる部分に記されたイスラエル民族の歴史を、イエス・キリストの到来を準備する神の救い働きかけの展開として理解する立場から学ぶ。神の語りかけを信じ、その成就に人生を賭ける人々が切り拓いた信仰共同体の歩みは、どのような困難や誘惑に晒され、存亡の危機を克服して続いてきたのかを考察する。							
達成目標 (授業の目的)	キリスト教における旧約聖書の基礎的知識を得る。西洋キリスト教文化圏においては常識として語られる聖書の登場人物像や用語について、その社会的背景を踏まえた聖書思想上の意味と内容を学ぶことによって、発想の転換を必要とする異文化交流における相互理解のための一助とすることができる。							
到達目標 (学修成果)	①旧約聖書やキリスト教の基礎的知識を、用語や概念の意味と内容の理解を通して得る ②聖書の言葉をその字面だけでなく歴史的・文化的背景を含めて理解し、神概念や信仰に関する事柄を自分の言葉で表現できる ③聖書に登場する人物像の理解を通して、人間の本質とその救いの意味について考察した事柄と自分の意見を、聖書解釈に関連づけながら分かりやすく論述することができる							
評価方法	①授業内小テスト (3%×4回=12%) ②授業中やグループ内での積極的発言 (18%)、リアクションペーパー (3%×10回=30%) ③定期 (期末) 試験による解答 (20%) と小論文 (20%)							
評価基準	①テキストや授業で学んだ旧約聖書に登場する人物、用語、概念を正しく理解していること ②準備学修で得た自分の見解や疑問をグループ内で積極的に話し合えること、及び、授業で学んだ聖書解釈上の知識に対するコメントを自分の言葉で表現できること ③テキストと授業内容を正しく理解していること、及び「旧約聖書の登場人物の中で最も興味を引く人物」について、どのような点においてか、また、その理由は何かを明記した形で700～800字の小論文を書けること							
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	講義の概要と旧約聖書の基礎知識	講義、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.10-12, 76-79 の予習、配布プリントの復習
2	創世記 1 章 天地創造と人間の召命	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.34-37, 80-85 の予習、コメントシート提出
3	創世記 2-3 章 人間の創造、 禁断の実と人間の罪	聖書講読、意見交換 授業内小テスト①	テキスト pp.50-51, 86-87 の予習、配布プリントの復習
4	創世記 4 章 カインとアベルの物語	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.88-89 の予習、コメントシート提出
5	創世記 6-11 章 ノアの箱舟の物語、 バベルの塔の物語	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.90-93 の予習、コメントシート提出
6	創世記 12、15、17 章 アブラハムの召命 契約の思想	聖書講読、意見交換 授業内小テスト②	テキスト pp.94-95 の予習、配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	創世記 18、21 章 信仰の試練	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.44-45, 14-17 の予習、コメントシート提出
8	出エジプト記 1-3 章 モーセの召命	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp. 96-97 の予習、コメントシート提出
9	出エジプト記 12 章 過越祭	聖書講読、意見交換 授業内小テスト③	テキスト pp.98-99 の予習、配布プリントの復習
10	出エジプト記 20 章 十戒	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.100-101 の予習、コメントシート提出
11	サムエル記上 8 章 王たちの物語 サムエル記下 11-12 章 バト・シェバ	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.102-107 の予習、コメントシート提出
12	列王記上 21 章 土地の意味と王の権力 アモス書 預言者の社会批判	聖書講読、意見交換 授業内小テスト④	テキスト pp.108-109 の予習、配布プリントの復習
13	イザヤ書 52-53 章 預言者の苦しみ	聖書講読、意見交換 リアクションペーパー	テキスト pp.110-111 の予習、コメントシート提出
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	エルサレムへの帰還、メシアニズムの成長 定期試験の講評	聖書講読、意見交換 講評	科目のまとめ、配布プリントの復習

テキスト	月本昭男（監修）『超図解 一番わかりやすいキリスト教入門』（東洋経済新報社）
参考書	雨宮慧『(図解雑学) 旧約聖書』（ナツメ社） 池上彰『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』（文春新書）

科目名	REL202: 宗教学 B			担当教員	小林 宏子	
開講期	秋	開講時限	木1限		研究室	4204
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	1,2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				1-①, 2-①
キーワード	キリスト教、聖書、契約、神の国、信仰、救い、罪の赦し、隣人愛、永遠の生命、希望					
授業の概要	新約聖書の中の福音書を中心に講読し、1世紀のユダヤ社会に登場したイエスの生涯とそのメッセージの意味を学ぶ。なぜ、イエスが救い主と信じられたのか、どのような人々がイエスの中に神の救いの意思を見出したのか、なぜ、イエスは十字架上で死ななければならなかったのかなど、キリスト教信仰における人間の救いはどのように理解され得るのかを学ぶ。					
達成目標(授業の目的)	福音書の講読を通して西洋思想の根底に流れるキリスト教信仰の基礎知識を得る。特に、西洋文化圏において常識的に使用される聖書起源の用語やたとえ話が、聖書の中で具体的にはどのような文脈の中で描かれているのかを学ぶことで、キリスト教信仰が成立した社会背景と救いの概念を理解し、宗教にまつわる異文化理解の一助とすることが目的である。					
到達目標(学修成果)	①新約聖書やキリスト教の基礎的知識を、用語や概念の意味と内容の理解を通して得る ②聖書の言葉をその字面だけでなく歴史・文化的背景を含めて理解し、人間の宗教的営みに関する事柄を自分の言葉で表現できる ③キリスト教の信仰理解を通して人間の救いの意味について考察した自分の意見を、聖書解釈に関連づけながら、分かりやすく論述することができる					
評価方法	①授業内小テスト(3%×4回=12%) ②授業中及び意見交換時の積極的発言(18%)、リアクションペーパー(3%×10回=30%) ③定期試験による解答(20%)と小論文(20%)					
評価基準	①テキストや授業で学んだキリスト教の用語と概念を正しく理解していること ②準備学修で得た自分の意見や疑問をグループ内で積極的に話し合えること、及び、授業で学んだ聖書解釈上の知識に対するコメントを自分の言葉で表現できること ③テキストと講義内容を正しく理解していること、及び、「キリスト教が説く救いは、現代社会においてどのような意味を持つのか」について700～800字の小論文を書けること					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義の概要 新約聖書の基礎知識	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.114-117の予習、配布プリントの復習
2	新約聖書の世界(1)ユダヤ教の宗派、神の国の宣教	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.118-123及びマタイ 20:1-16の予習、
3	新約聖書の世界(2)イエスの弟子たち、ファリサイ派と徴税人	講義、意見交換、授業内小テスト①	テキスト pp.124-125及びルカ 18:9-14の予習
4	イエスの宣教(1)奇跡物語、罪の赦し	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.126-127及びマタイ 8:23-9:8の予習
5	イエスの宣教(2)山上の説教	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.128-129及びマタイ 5章、6:25-7:12の予習
6	イエスの宣教(3)慈しみ深い神、放蕩息子のたとえ話、主の祈り	講義、意見交換、授業内小テスト②	テキスト pp.130-131及びルカ 15:1-32の予習
7	イエスの宣教(4)永遠の命、隣人愛の掟、善きサマリア人のたとえ	講義、意見交換、リアクションペーパー	マタイ 25:31-46、ルカ 10:25-37の予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	イエスの受難（1）エルサレム入城、最後の晩餐、新しい契約	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.132-135 及びマタイ 21 章、26 章の予習
9	イエスの受難（2）死刑判決、十字架の道行き	講義、意見交換、授業内小テスト③	テキスト pp.136-138 及びルカ 23 章の予習
10	イエスの受難（3）十字架上の死、イエスの受難と死の意味	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト p.139 及びヨハネ 19 章の予習
11	イエスの復活（1）復活者イエスとの出会い	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.140-141 及びマタイ 28 章、ルカ 24 章の予習
12	イエスの復活（2）使徒たちに受け継がれる宣教の使命	講義、意見交換、授業内小テスト④	テキスト pp.142-143 及びヨハネ 20 章の予習
13	イエスの復活（3）パウロの召命	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.144-146 及び使徒言行録 8-9 章の予習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	キリスト教の広まり 定期試験に対するコメント	講義、意見交換、リアクションペーパー	テキスト pp.148-149 の予習

テキスト	月本昭男（監修）『超図解 一番わかりやすいキリスト教入門』（東洋経済新報社） 『新約聖書』（人間学Ⅰの授業で配布されるもの）
参考書	百瀬文晃『キリスト教の原点』（教友社） 雨宮慧『聖書に聞く』（オリエンズ宗教研究所）

科目名	MUS201: 音楽 A			担当教員	北村 さおり	
開講期	秋	開講時限	木 2 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	西洋音楽史、音楽、美術、ヨーロッパ、クラシック、音楽鑑賞、歌、オペラ					
授業の概要	声楽作品を中心に、時代ごとの演奏様式や歴史的背景の知識を深めながら西洋音楽史を学ぶ。鑑賞では楽典の知識を用いた専門的な分析にこだわらず、また、「好き・嫌い」といった趣向に左右された感想に終始せず、その歴史的社会的な背景から作品の独創性や受容について考察を試みる。授業毎に予習・復習の課題を課す。					
達成目標 (授業の目的)	西洋音楽の歴史は美術、文学、演劇、社会、政治などと絡み合っており、音楽をひとつの切り口とした「西洋史」でもある。そして、現在のあらゆるジャンルの音楽の源でもある。クラシック音楽の経験が浅くとも、中世からロマン派までの音楽史の推移を理解し、作曲家や作品の特徴を多角的に分析することで、現代に生きる我々の美学的観点におけるアイデンティティーを考察するきっかけとする。					
到達目標 (学修成果)	音楽史を理解し、作品の解釈を試みることにより、自己と芸術との関わりを考え、自己の感性を磨き、表現の幅を広げる。					
評価方法	①授業課題提出 2%×10回=20% ②授業内試験 70% ③期末レポート課題 10%					
評価基準	①予習・復習を目的とした授業毎の課題を翌週の授業で提出する。 ②自筆ノート、提出した授業課題のみの持ち込みを可とする。テキストや配布プリントの持ち込みは禁止。テキストと授業の内容を的確に理解しているかどうか。 ③任意の作品やテーマについてのレポート提出。調べ学習にとどまらず、授業を踏まえた内容で、自身の考えを比較や考察を加えて論述すること。(引用や参考文献など、レポートの形式が整っているもののみ採点対象とする)					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	音楽の始まり：「リベラルアーツの音楽～その役割と重要性」、中世：「抽象性と教会音楽 グレゴリオ聖歌」	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題①をする。
2	ルネサンス：「美の発見と多声音楽」	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題②をする。
3	バロック：「劇化する音楽」「オペラの誕生と器楽の興隆」	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題③をする。
4	バロック：「市民に開かれる音楽へ」ヘンデル、バッハ	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題④をする。
5	古典：「近代市民音楽の始まり」「ホモフォニーとソナタ形式」ハイドン	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題⑤をする。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	古典：「自由な音楽活動」「神童」モーツァルト	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題⑥をする。
7	古典：「自己表現としての音楽」ベートーヴェン	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題⑦をする。
8	ロマン派：「革命のもたらした幻滅」「憧れ、恐怖、愛と夢」「ドイツリート」シューベルト、シューマン、ブラームス	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題⑧をする。
9	ロマン派：「内面世界」「性格的小品」シューマン	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題⑨をする。
10	ロマン派：「芸術性の追求と娯楽的サロン音楽」「個性と独創性」ショパン、リスト	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：試験の準備
11	授業内試験、自己採点、解説	試験、自己採点、解説	予習：試験の準備 復習：試験の見直し
12	後期ロマン派：「肥大する音楽」「崩壊する調性」	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業課題⑩をする。
13	後期ロマン派～20世紀：「崩壊する調性」「世紀末」「西洋からの離脱」ワーグナー、マーラー、シェーンベルク	講義、鑑賞、ノート記入	予習：テキストを読み、用語等は調べておく。 復習：授業の振り返り
定期試験を実施しない			
14	まとめ	講義	予習：授業の振り返り

テキスト	長沼由美／二藤宏美『大人の音楽史入門 CD付』（ヤマハミュージックメディア）
参考書	岡田暁生『西洋音楽史』（NHK出版） 田村和紀夫『クラシック音楽の世界』（新星出版社）
その他特記事項	初回授業の前に必ずMoodleに登録し、指示された予習をしてから第1回の授業に臨むこと。 予習教材等をMoodleにアップロードすることもあるので、毎回確認し、必要ならばプリントして持参すること。

科目名	MUS202: 音楽 B			担当教員	北村 さおり	
開講期	秋	開講時限	木 3 限	研究室	4号館 2階 講師控室	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	西洋音楽史、オペラ、クラシック、ヨーロッパ					
授業の概要	映像資料を用いてオペラ全幕を授業内に鑑賞する。作曲家や時代背景、鑑賞するプロダクションの出演者や演出などの分野について、受講生それぞれが、講師が指定する発表分野を分担し、レポート（レジュメや資料）を提出する。発表担当が準備してきたことを全員（またはグループ）で共有し、鑑賞の知識を増やし、討論を行う。発表や討論の方法は受講人数によってグループとなる可能性もある。最初の授業でグループ分けや担当を決める。					
達成目標 (授業の目的)	総合芸術と言われるオペラについて、オペラの歴史や作品の背景を学ぶ。楽典の知識を用いた専門的な分析にこだわらず、また、「好き・嫌い」といった趣向に左右された感想に終始せず、その歴史的社会的な背景、台本、演出、美術、制作など、多角的な視点から考察や討論を試みる。必要な情報を端的にまとめ、発表し、討論を導く。					
到達目標 (学修成果)	鑑賞の楽しみ方を知り、芸術に関心を持てるようになる。オペラを学ぶことを通して自己と芸術との関わりを考え、自己の感性を磨き、表現の幅を広げることができる。					
評価方法	①担当した発表内容についての評価：30% ②他の担当者による発表に対するリアクションペーパーや、予習・復習として出す授業課題：40% ③発表に対する質問や討論での発言など、授業内での評価：10% ④期末レポート課題：20%					
評価基準	①必要な情報を正しく収集し、端的にまとめられ、自身の考察、論述ができていないか。（ネット検索や辞書を1つだけ参照し、丸写しすることは認めない。レポート作成のルールに準じる） ②他の発表を精査して聞き、疑問点などをまとめることができていないか。予習復習の課題ができていないか。 ③授業の進行に有意義な発言や相手の考えを引き出すような質問ができていないか。 ④発表を担当した作品やテーマについてのレポート提出。調べ学習にとどまらず、授業を踏まえた内容で、自身の考えを比較や考察を加えて論述すること。（引用や参考文献など、レポートの形式が整っているもののみ採点対象とする）					
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	講義概要 オペラとは	講義、リアクションペーパー	予習・復習：西洋史の概要
2	オペラの成り立ち	講義、鑑賞、リアクションペーパー	予習：授業課題-1 復習：オペラ史
3	モーツァルト「フィガロの結婚」 発表、質疑応答、鑑賞 1	講義、発表、鑑賞、リアクションペーパー	予習：あらすじ 復習：鑑賞のまとめ-1
4	モーツァルト「フィガロの結婚」 発表、質疑応答、鑑賞 2	講義、発表、鑑賞、リアクションペーパー	予習：授業課題-2 復習：鑑賞のまとめ-2
5	モーツァルト「フィガロの結婚」 発表、質疑応答、鑑賞 3	講義、発表、鑑賞、リアクションペーパー	予習：授業課題-3 復習：鑑賞のまとめ-3

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	モーツァルト「フィガロの結婚」 発表、質疑応答、鑑賞4、討論	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：授業課題-4 復習：鑑賞のまとめ-4
7	ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」 発表、質疑応答、鑑賞1	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：あらすじ 復習：鑑賞のまとめ-5
8	ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」 発表、質疑応答、鑑賞2	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：授業課題-5 復習：鑑賞のまとめ-6
9	ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」 発表、質疑応答、鑑賞3、討論	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：授業課題-6 復習：鑑賞のまとめ-7
10	ヴェルディ「椿姫」 発表、質疑応答、鑑賞1	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：あらすじ 復習：鑑賞のまとめ-8
11	ヴェルディ「椿姫」 発表、質疑応答、鑑賞2	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：授業課題-7 復習：鑑賞のまとめ9
12	ヴェルディ「椿姫」 発表、質疑応答、鑑賞3	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：授業課題-8 復習：鑑賞のまとめ-10
13	ヴェルディ「椿姫」 発表、質疑応答、鑑賞4、討論	講義、発表、鑑賞、リ アクションペーパー	予習：授業課題-9 復習：鑑賞のまとめ-11
	定期試験を実施しない		
14	総括	講義	予習：期末レポートの準備

テキスト	授業内容に関するプリントを配布する
参考書	水谷彰良『新 イタリア・オペラ史』（音楽の友社） 加藤浩子『オペラでわかるヨーロッパ史』（平凡社新書） 岡田暁生『西洋音楽史』（NHK 出版）
その他 特記事項	基礎的な西洋音楽史、または、ヨーロッパ史の知識がある方が望ましいが、足りない者は予習を入念に行うこと。楽典の専門知識は必要としない。 初回授業の前に必ずMoodleに登録し、指示された予習をしてから第1回の授業に出席すること。 予習教材等をMoodleにアップロードすることもあるので、毎回確認し、必要ならばプリントして持参すること。

科目名	SOC201: 社会学 A				担当教員	李 侖姫
開講期	春/秋	開講時限	木3限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	社会学の基本概念、社会学理論、社会構造、個人と社会					
授業の概要	本講義では、社会学理論を中心に「社会学とは何か」について考察する。社会学的想像力、社会構造、文化、ネットワーク、権力、機能、社会的相互作用、地位と役割などの社会学の基本的な概念について学ぶ。そして、身近な社会現象をどのように理解するのか、すなわち、個人的な経験がどのようにして社会過程によって作られるのかについて学習する。本講義は、配布資料を解説する講義形式で進める。					
達成目標(授業の目的)	社会学の基本概念と考え方に慣れ親しみ、日常生活で経験する個人的な出来事を社会学的な視点で読み解く力を学習することを目的とする。日々の生活の中で、様々な社会現象を社会学的に考えてみるという訓練、そして、社会関係を構築するための実践的な思考力を身につけることを達成目標とする。					
到達目標(学修成果)	1. 学生が日常生活で経験する身近な社会現象を社会学的な視点で考えることができる。 2. 学生が社会学の基本概念を理解し、様々な社会現象に対する社会学的視点を身に付ける。 3. 学生が社会学理論の様々なアプローチを学習し、様々な社会問題に適用できる。					
評価方法	1. 課題提出(12回) 36% 2. 定期試験(テイクホームエグザム) 64%					
評価基準	1. 毎回、提出される課題をみて講義内容をきちんと学習し理解しているかどうかを評価する。 2. 定期試験(①選択式問題:文章の空欄に入る用語を語群の中から選び、該当する番号を記入する問題、②記述式問題:提示された問題について簡潔に記述し、授業で習ったことを応用する問題)を通して、社会学の基本概念と各理論、社会学用語を学習しているかどうかを評価する。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション:社会学的想像力	講義、課題1回目	毎回、配布されるテキスト資料の一読、講義資料の復習
2	理論とは何か:社会学と科学、理論、概念、命題、仮説	講義、課題2回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
3	社会学理論:①機能理論	講義、課題3回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
4	社会学理論:②紛争理論	講義、課題4回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
5	社会学理論:③象徴的相互作用理論	講義、課題5回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
6	社会学理論:④交換理論	講義、課題6回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
7	文化:文化の特性、文化の基本的要素、文化遅滞、エスノセントリズム、下位文化	講義、課題7回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	文化と経済：プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	講義、課題 8 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
9	地位と役割：地位群と役割群、役割葛藤	講義、課題 9 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
10	組織：官僚制の特徴	講義、課題 10 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
11	ネットワーク：ネットワークとは何か、紐帯の内容と強さ、密度	講義、課題 11 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
12	ネットワークの構造と機能：閉鎖型と開放型ネットワーク	講義、課題 12 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
13	社会学のまとめ	春学期の授業内容の復習を行う	まとめの授業動画をもとに春学期に配布された全講義資料の復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	試験の解説	試験問題の解説	試験の振り返り

テキスト	特に指定しない。毎回の授業で、穴埋め式の講義内容に関する資料を配布する。
参考書	1. 高根 正昭 (1979) 『創造の方法学』 (講談社現代新書) 2. アンソニー・ギデンズ著、松尾清文ほか訳 (2009) 『社会学 第5版』 (両立書房)
その他 特記事項	授業内で適宜、関連文献を紹介する。講義資料の内容と併せてより詳しく学習したい場合には、参考書と併せて、関連文献を一読することをお勧めする。

科目名	SOC202: 社会学 B				担当教員	李 侖姫		
開講期	春/秋	開講時限	木 4 限		研究室	4号館 2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	社会学の基本概念、社会調査法、個人と社会							
授業の概要	本講義では、様々な社会現象を社会学的視点から理解する。例えば、社会化、ジェンダー、ライフコース、文化と消費、逸脱、宗教、社会変動など、社会現象の各領域について考察する。また、本講義では、基本的な調査法（サーベイ、実験、観察、文書分析）について理解し、どのようにして社会現象を観察し分析するのかを学習する。本講義は、配布資料を解説する講義形式で進める。							
達成目標 (授業の目的)	日々の生活の中で、様々な社会現象を社会的に考えてみるという訓練、そして、社会関係を構築するための実践的な思考力を身につけることを目的とする。本講義では、特に社会学の各領域に関する基本的な概念によって具体的な内容を理解し、そして、調査方法全般について勉強する。							
到達目標 (学修成果)	1. 学生が日常生活で経験する身近な社会現象を社会的な視点で考えることができる。 2. 学生が社会学の各領域に関する基本概念を理解し、様々な社会現象に対する社会的視点を身につける。 3. 学生が調査方法の全般について学習し、様々な社会問題を分析し、考察することができる。							
評価方法	1. 課題提出 (12回) 36% 2. 定期試験 (テイクホームエグザム) 64%							
評価基準	1. 毎回、提出される課題をみて講義内容をきちんと学習し理解しているかどうかを評価する。 2. 定期試験 (①選択式問題: 文章の空欄に入る用語を語群の中から選び、該当する番号を記入する問題、②記述式問題: 提示された問題について簡潔に記述し、授業で習ったことを応用する問題) を通して、社会学の基本概念と各理論、社会学用語を学習しているかどうかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	オリエンテーション: 社会学的視点	講義、課題 1 回目	毎回、配布されるテキスト資料の一読、講義資料の復習
2	社会化: 生まれか育ちか? 社会階層と社会化、社会化のエージェント	講義、課題 2 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
3	ジェンダー: 性とジェンダー、ジェンダー役割と社会化	講義、課題 3 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
4	ライフコース: 個人の人生と歴史的出来事、社会構造との関係	講義、課題 4 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
5	文化と消費: 準拠集団と消費、地位と消費	講義、課題 5 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
6	逸脱: デュルケム、マートンのアノミー概念、ラベリング理論	講義、課題 6 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	宗教：宗教の定義、基本要素、宗教と社会秩序、宗教と近代化	講義、課題 7 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
8	社会変動：古典理論（マルクス、ウェーバー、デュルケム）と現代の理論	講義、課題 8 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
9	社会調査法 1：調査過程とサーベイ法	講義、課題 9 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
10	社会調査法 2：実験法	講義、課題 10 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
11	社会調査法 3：観察法	講義、課題 11 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
12	社会調査法 4：文書分析法	講義、課題 12 回目	講義資料の復習、テキスト資料の一読
13	社会学のまとめ	春学期の授業内容の復習を行う	講義資料の復習、テキスト資料の一読
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	試験の解説	試験問題の解説	試験の振り返り

テキスト	特に指定しない。毎回の授業で、穴埋め式の講義内容に関する資料を配布する。
参考書	1. 高根 正昭（1979）『創造の方法学』（講談社現代新書） 2. アンソニー・ギデンズ著、松尾清文ほか訳（2009）『社会学 第5版』（両立書房）
その他 特記事項	授業内で適宜、関連文献を紹介する。講義資料の内容と併せてより詳しく学習したい場合には、参考書と併せて、関連文献を一読することをお勧めする。

科目名	LAW211: 日本国憲法 A				担当教員	牧 耕太郎	
開講期	春	開講時限	木5限		研究室	4号館2階 講師控室	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①	
キーワード	日本国憲法、統治機構、天皇、立法、行政、司法、地方自治、平和主義						
授業の概要	本講義は、日本国憲法のうち、主に統治機構と呼ばれる部分について講じる。統治機構とは、国家の政治を実現するために設置されている様々な機関とその関係を指すが、本講義は日本における統治機構の法的位置づけを日本国憲法という法規範を基に講じるものである。なお、本講義では、講師作成のレジュメを基に、受講生との対話型の講義を行う。						
達成目標(授業の目的)	本講義では、受講生諸君が、日本の統治機構の構造を理解し、その固有の任務や機関の相互関係について正確に説明ないし描写することができるようになることを目指す。併せて、現実の政治について、自ら憲法的観点からの分析が可能となる。						
到達目標(学修成果)	まず、日本の統治機構について、誤りなく理解している。その上で、それぞれの機関やその関係について、自らの言葉で精確に説明・描写することができる。そして、学習したことに照らし、現実の政治についての法と現実の位置関係を言葉で説明し、かつその問題点を指摘できる。						
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間レポート(第6回から7回辺りに課題を示す)：30% ③期末レポート：40%						
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか(正答かどうかは問わない)。 ②中間レポート・③期末レポート：課題内容を正確に理解した上で、当該課題に対し、多角的、かつ論理的な記述がなされているか。						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス・イントロダクション 憲法とは	講義、質疑応答	憲法の前文を読む。 教科書第1講を読む。
2	日本憲法史 焼け落ちた帝国のあとに	講義、質疑応答	教科書第2講を読む。 第3回レジュメに取り組む。
3	統治機構の諸原則 マジョリティとマイノリティの関係	講義、質疑応答	教科書第18講を読む。 第4回レジュメに取り組む。
4	国会(1) 一院制と議員の地位— 国会議員がたくさんいる理由	講義、質疑応答	教科書第19講を読む。 第5回レジュメに取り組む。
5	国会(2) 一院制としての国会— 会議をする方法	講義、質疑応答	教科書第20講を読む。 第6回レジュメに取り組む。
6	内閣 内閣総理大臣の仕事とは	講義、質疑応答	教科書第21講を読む。 第7回レジュメに取り組む。
7	裁判所 憲法の砦・法の番人としての裁判所	講義、質疑応答	教科書第22講を読む。 第8回レジュメに取り組む。
8	地方自治 民主主義の学校	講義、質疑応答	教科書第23講を読む。 第9回レジュメに取り組む。
9	中間レポート返却・講評/参政権・国務請求権 国に関わっていくということ	講義、質疑応答	教科書第17講を読む。 第10回レジュメに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	天皇制・皇室 憲法の飛び地	講義、質疑応答	教科書第3講を読む。 第11回レジュメに取り組む。
11	平和主義 敗戦から何を学んだのか	講義、質疑応答	教科書第4講を読む。 第12回レジュメに取り組む。
12	憲法保障 ―違憲審査制と憲法変遷― 移り変わってゆく「憲法」という風景	講義、質疑応答	教科書第24講を読む。 第13回レジュメに取り組む。
13	(憲法) 判例の読み方 どこまでが「判例」？	講義、質疑応答	これまでの疑問点を洗い出し て解消しておく。 期末レポートを作成する。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	期末レポートに対する解説・講評、 学期の総括	講義、質疑応答	日本の統治機構の利点・不利 点を確認し、現在の政治状況 を確認する。

テキスト	長谷部恭男『憲法講話 24の入門講義』（有斐閣）
参考書	安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣） 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕』（有斐閣）
その他 特記事項	本講義では、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。

科目名	LAW212: 日本国憲法 B			担当教員	牧 耕太郎	
開講期	秋	開講時限	木 4 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	日本国憲法、人権、憲法上の権利、自由、平等、公共の福祉					
授業の概要	本講義は、日本国憲法のうち、主に人権論と呼ばれる部分について講じる。人権や自由、平等というものは、ある種の誤解を招きやすい概念でもある。本講義は憲法学における人権の概念を、実際の裁判なども参照しながら講じるものである。 なお、本講義では、講師作成のレジュメを基に、受講生との対話型の講義を行う。					
達成目標 (授業の目的)	本講義では、受講生諸君が、人権・自由の概念を理解し、なぜ法的・社会的に重要視されているのかを理解することを目指す。併せて、身の回りの出来事について、自ら憲法的観点からの分析が可能となる。					
到達目標 (学修成果)	まず、人権がなぜ重要であるのかを徹底的に理解している。その上で、それぞれの人権の保障根拠を正確に理解できている。さらに、人権の衝突状況などが生じたときに、適切な交通整理をする力を身につけている。					
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間レポート（第6回から7回辺りに課題を示す）：30% ③期末レポート：40%					
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか（正答かどうかは問わない）。 ②中間レポート・③期末レポート：課題内容を正確に理解した上で、当該課題に対し、多角的、かつ論理的な記述がなされているか。					
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス・イントロダクション 憲法とは	講義、質疑応答	憲法の前文を読む。 教科書第1講を読む。
2	基本的人権総論 人権のある「人」の範囲	講義、質疑応答	教科書第5講を読む。 第3回レジュメに取り組む。
3	思想・良心の自由、信教の自由 あなたの「世界」を成すもの	講義、質疑応答	教科書第6講を読む。 第4回レジュメに取り組む。
4	表現の自由（1）—基本理解— なぜ「表現」は大事なのか	講義、質疑応答	教科書第7講を読む。 第5回レジュメに取り組む。
5	表現の自由（2）—現代における表現— マスメディア、インターネット、結社	講義、質疑応答	教科書第8講を読む。 第6回レジュメに取り組む。
6	学問の自由 ガリレオはなぜ処罰されたのか	講義、質疑応答	教科書第9講を読む。 第7回レジュメに取り組む。
7	職業選択、居住移転、国籍離脱の自由 「仕事」を選べるといふことの価値	講義、質疑応答	教科書第10講を読む。 第8回レジュメに取り組む。
8	財産権の保障 「既得権を打ち破れ！」?	講義、質疑応答	教科書第11講を読む。 第9回レジュメに取り組む。
9	中間レポート返却・講評／人身の自由 警察官はゴミ集積所すら漁る	講義、質疑応答	教科書第12講を読む。 第10回レジュメに取り組む。
10	包括的基本権 プライバシーとペルソナ、あるいは環境	講義、質疑応答	教科書第13講を読む。 第11回レジュメに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	平等原則 「平等に扱われていない」という意味	講義、質疑応答	教科書第 14 講を読む。 第 12 回レジュメに取り組む。
12	生存権 「生きる権利」がなぜ書いてあるのか	講義、質疑応答	教科書第 15 講を読む。 第 13 回レジュメに取り組む。
13	教育を受ける権利、労働に関する権利 ツラくても「権利」であるわけ	講義、質疑応答	教科書第 16 講を読む。 期末レポートを作成する。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	期末レポートに対する解説・講評、 学期の総括	講義、質疑応答	「人権」の法的限界について 考えてみる。

テキスト	長谷部恭男『憲法講話 24 の入門講義』（有斐閣）
参考書	安西文雄ほか『憲法学読本〔第 3 版〕』（有斐閣） 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I 〔第 7 版〕』（有斐閣）
その他 特記事項	本講義では、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。

科目名	LAW201: 法学 A			担当教員	牧 耕太郎	
開講期	春	開講時限	木 4 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	法学、基礎法、法哲学、法制史、比較法、法社会学					
授業の概要	本講義は、法学のうち、特に基礎法と呼ばれる分野を概観する。基礎法とは現実の法の根底をなすものを意味するが、本講義ではその中からいくつかのものをトピック的に取り扱う。したがって、講義全体としては緩やかな流れをもちながらも、体系的にはこだわらないものとなっている。 なお、本講義では、講師作成のレジюмеを基に、受講生との対話型の講義を行う。					
達成目標 (授業の目的)	現在の法制度の根底に流れている思想や価値判断が身につくことを目指す。また、現在の日本の法制度が唯一・最良のものではないということを理解できるようにする。その上で、未知の問題にぶつかったとき、自らの力で考え、解決策を提示することができるようになることを目標とする。					
到達目標 (学修成果)	まず、「法」が他の「ルール」とどう異なるかを理解している。その上で、「法」固有の価値判断がどのようなものかを日本語で論理的に説明できる。さらに、そのような大局的視野に立って、現在の社会問題について論評することができる。					
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間レポート（第6回から7回辺りに課題を示す）：30% ③期末レポート：40%					
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか（正答かどうかは問わない）。 ②中間レポート・③期末レポート：課題内容を正確に理解した上で、当該課題に対し、多角的、かつ論理的な記述がなされているか。					
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス・イントロダクション 法学と基礎法学	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第2回レジюмеに取り組む。
2	法とルールの異同 —権利と義務— チェスのルールと法は何が違うのか	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第3回レジюмеに取り組む。
3	法に対する2つの見方 —西洋と東洋？— 法に何を求めるのか	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第4回レジюмеに取り組む。
4	日本法の出自 日本の法は日本人が考え出したのか	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第5回レジюмеに取り組む。
5	いわゆる「神判」と魔女裁判 裁きは誰の手に握られているのか	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第6回レジюмеに取り組む。
6	裁判に関わる人々 裁判という営みを知る	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第7回レジюмеに取り組む。
7	法と慣習 法律は「書かれている」とは限らない	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第8回レジюмеに取り組む。
8	自然法と法実証主義 法は「誰が」作ったのか	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第9回レジюмеに取り組む。
9	レポート返却・講評／英米法と大陸法 信頼すべきは大衆？それともエリート？	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第10回レジюмеに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	正義論 「セイギの味方」はどんな人？	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第11回レジュメに取り組む。
11	いわゆる「隣人訴訟」 昨日の友は今日の敵？	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第12回レジュメに取り組む。
12	動物、AI、そして人 アンドロイドは「友達」になれるか	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 予備資料を読んだ上で、テキストを通読しておく。
13	法と文学 夏目漱石『坊っちゃん』に潜む法的思考	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 期末レポートを作成する。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	期末レポートに対する解説・講評、 学期の総括	講義、質疑応答	法の基本的な発想がどのようなものか、もう一度振り返ってみる。

テキスト	講師作成のレジュメ 第13回のみ：夏目漱石『坊っちゃん』（角川文庫）
参考書	木庭顕『誰のために法は生まれた』（朝日出版社） 三ヶ月章『法学入門』（弘文堂）、その他、参考となるものは授業中に示す。
その他 特記事項	本講義では、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。

科目名	LAW202: 法学 B				担当教員	牧 耕太郎
開講期	秋	開講時限	木 3 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	法学、法解釈学、実定法、民法、刑法、裁判					
授業の概要	本講義は、法学のうち、実定法学（法解釈学）と呼ばれる分野を取り扱う。その中でも、基本的な法分野である、市民関係の権利関係を規律する民法と犯罪と刑罰に関する刑法を中心的に取り扱い（本講義では憲法を扱わないので注意されたい）、その実現である裁判や法の執行の仕組みや法についての概論も行う。 なお、本講義では、講師作成のレジュメを基に、受講生との対話型の講義を行う。					
達成目標 (授業の目的)	まず、現実に運用されている条文を適切に摘示して根拠として示すことができたり、裁判手続きが紛争解決手続きとしてどのような性質をもつものかを正確に理解することを目指す。それを踏まえて、法律の観点から社会問題を分析・思考し、解決策を提示することができるようになる。					
到達目標 (学修成果)	条文を適切に見つけ、摘示することができる。 裁判・執行という制度・現象について理解し、説明することができる。 日本の民法と刑法の基本的な考え方を正確に理解し、説明することができる。					
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間レポート（第6回から7回辺りに課題を示す）：30% ③期末レポート：40%					
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか（正答かどうかは問わない）。 ②中間レポート・③期末レポート：課題内容を正確に理解した上で、当該課題に対し、多角的、かつ論理的な記述がなされているか。					
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス・イントロダクション 法解釈学というもの	講義、質疑応答	六法を引く。 第2回レジュメに取り組む。
2	法の分類 犬も歩けば「法」に当たる	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第3回レジュメに取り組む。
3	法という「体系」と、その「解釈」 「このはし牛馬渡るべからず」の意味	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第4回レジュメに取り組む。
4	裁判手続法 一法の宣言— 「裁判所は法を語る口である」	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第5回レジュメに取り組む。
5	民法総論 一私人間規律に関する諸原則— 人々の中の法的関係を作るもの	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第6回レジュメに取り組む。
6	契約法 誰かに何かをしてもらうために	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第7回レジュメに取り組む。
7	不法行為法 地獄の沙汰も金次第	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第8回レジュメに取り組む。
8	親族法 「家族になろうよ」?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第9回レジュメに取り組む。
9	レポート返却・講評／相続法 人は「幽霊」と合体する!	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第10回レジュメに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	犯罪と刑罰 なぜ人を「悪者」扱いして処罰するのか	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第11回レジュメに取り組む。
11	犯罪の特殊な形 犯罪の範囲が広がってゆく場合	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第12回レジュメに取り組む。
12	犯罪の成立を否定するもの 「やったのに無罪！」なのはなぜ？	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第13回レジュメに取り組む。
13	裁判の執行 法の「果実」としての執行	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 期末レポートを作成する。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	期末レポートに対する解説・講評、 学期の総括	講義、質疑応答	日本の法体系とそれぞれの役割を振り返ってみる。

テキスト	池田真朗ほか編『法学六法'22』（信山社） 講師作成のレジュメ		
参考書	松井茂記ほか『はじめての法律学〔第6版〕』（有斐閣） 市川正人ほか『現代の裁判〔第7版〕』（有斐閣）、その他、参考となるものは授業中に示す。		
その他 特記事項	本講義では、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。六法は毎授業参照するので必携のこと。		

科目名	EDU201: 教育学 A				担当教員	杉村 美佳		
開講期	春	開講時限	月 3 限		研究室	4220		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	発達と教育、発達心理、教育の思想、教育の歴史							
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて、人間の発達の理論や教育の思想および歴史の視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を学ぶ。具体的には、人間の発達と教育、子ども観と教育観の変遷、教育の歴史等について、今日の教育問題との関連を考察しながら検討する。							
達成目標 (授業の目的)	教育という営みについて、人間の発達の理論や教育の思想および歴史の視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を理解し、教育事象を教育学的視点から論理的、批判的に考察することができるようになることを目的とする。							
到達目標 (学修成果)	①教育学の諸分野や基礎理論についての的確に理解し、概要を説明することができる。 ②現代の教育を取り巻く諸問題の背景や現状を理解し、課題を論述することができる。 ③教育事象に関するレポートの作成を通して、教育学的視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、その結果を効果的に発表することができる。							
評価方法	①授業参画 (10%)、②授業時に課すリアクション・ペーパー (30%)、③授業内試験 (30%)、④レポート (30%)							
評価基準	①授業参画：積極的に発言や質問を行っているか。 ②リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ③授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ④レポート：参考文献の内容を理解し、教育学的観点から論理的に論述できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	教育学とは—教育学の諸分野—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.38-41 の一読 配布プリントの復習
2	子どもを取り巻く社会の変化 —少子化・情報化・子どもの貧困—	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.45-49 の一読 配布プリントの復習
3	人間の発達と教育 (1) 幼児期	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.41-45 の一読 DVD の内容の要約・考察
4	人間の発達と教育 (2) 児童期	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.27-31 の一読 DVD の内容の要約・考察
5	道徳性の発達と教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.120-125 の一読 配布プリントの復習
6	発達障害と特別支援教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.152-160 の一読 配布プリントの復習
7	子ども観・教育観の変遷 (1) コメニウス・ロック	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.77-80 の一読 配布プリントの復習
8	子ども観・教育観の変遷 (2) ルソー	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.81-84 の一読 配布プリントの復習
9	子ども観・教育観の変遷 (3) デューイ	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.85-87 の一読 DVD の内容の要約・考察

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	幼児教育の思想－フレーベル・モンテッソーリ－	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.87-88 の一読 DVD の内容の要約・考察
11	小括・授業内試験	講義・質疑応答 授業内試験	10回目までの授業内容の復習
12	教育の歴史（1）－戦争と教育－	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.70-72 の一読 配布プリントの復習
13	教育の歴史（2）－学歴主義社会の形成と生涯学習の推進	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.73-75 の一読 配布プリントの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	教育の歴史（3）－生きる力の育成と PISA 型学力・試験の返却と解説	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.55-57 の一読 配布プリントの復習

テキスト	内海崎貴子 編著『教職のための教育原理』（八千代出版）
参考書	田嶋一他著『やさしい教育原理』（有斐閣アルマ）

科目名	EDU201: 教育学 A				担当教員	青木 由紀子	
開講期	秋	開講時限	火 2 限		研究室	4号館 2階 講師控室	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①	
キーワード	人間と教育、発達と教育、教育の歴史と思想、学校と社会、学力						
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて心理的、思想的、歴史的なアプローチから探究することを通して、教育学の視点や基礎理論を学ぶ。具体的には、人間の発達と教育、子ども観と教育観の変遷、教育の歴史や思想等について、今日の教育問題との関連を考察しながら検討する。最後に、各自が関心のある教育課題を取り上げ、レポートを作成する。						
達成目標 (授業の目的)	教育学の基礎知識や教育の歴史・思想を学ぶことで、現代の様々な教育事象を、教育的観点から理論的・批判的に考察することができるようになる。教育をめぐる様々な課題に対して問題意識を持ち、それを自らの言葉で表現し、他者の意見に耳を傾け学びながら、深めていくことを目的とする。						
到達目標 (学修成果)	①授業で学ぶ教育学の諸分野や基礎理論についての確に理解し、ミニレポートにおいて、概要を説明することができる。その上で、自ら問題意識を持ち、それを継続して深めていくことができる。 ②教育の基礎理論、歴史、思想について、基礎的な事項や流れを理解し、説明することができる。 ③期末レポートの作成を通して、自ら問いを設定し、教育学的視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、自分の言葉で論述することができる。						
評価方法	①授業時に課すミニレポート (40%)、②授業内試験 (25%)、③期末レポート (35%)						
評価基準	①ミニレポート：授業内容を自分の言葉で要約し、論題について論理的に考察し、自分の問題意識を深めているか。 ②授業内試験：授業の知識内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ③期末レポート：自ら問題設定をし、参考文献の内容を生かしながら、教育学的観点から論理的に論述できているか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	本講義の目的と概要、アカデミックスキルズ、問いの立て方、深め方について	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
2	人間と教育、よい教育への問い	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 1、2 章の一読 ノート・配布プリントの復習
3	人間の発達と教育	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
4	子どもの権利と教育を受ける権利	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 3 章の一読 ノート・配布プリントの復習
5	学校とは何か	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 8 章の一読 ノート・配布プリントの復習
6	西洋教育思想史① 西洋教育思想の源流	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 4、5 章の一読 ノート・配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	西洋教育思想史② 近代以降	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 6、7 章の一読 ノート・配布プリントの復習
8	日本教育思想史	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 9、10 章の一読 ノート・配布プリントの復習
9	教育実践と方法	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 12、13 章の一読 ノート・配布プリントの復習
10	学力論	講義、ディスカッション、ミニレポート	第 2 章 4 節、11、14 章の一読 ノート・配布プリントの復習
11	小括・授業内試験	講義、質疑応答、授業内試験	試験の準備
12	まとめと期末レポート作成に向けて① －21 世紀に必要な学力とは－	グループワーク、ディスカッション、フィードバック	期末レポート作成に向けたワーク①
13	まとめと期末レポート作成に向けて② －学校、家庭、社会における教育－	プレゼンテーション、ディスカッション、フィードバック	期末レポート作成に向けたワーク②
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括および試験の返却と解説	講義、フィードバック、ディスカッション	フィードバックを読む。 ノート・配布プリントの復習

テキスト	木村元、汐見稔幸編著『教育原理』（ミネルヴァ書房）
参考書	田嶋 一 他著『やさしい教育原理』（有斐閣） 藤田由美子、谷田川ルミ編著『ダイバーシティ時代の教育の原理：多様性と新たなるつながりの地平へ』（ミネルヴァ書房）

科目名	EDU202: 教育学 B				担当教員	杉村 美佳		
開講期	春	開講時限	金 3 限		研究室	4220		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	教育社会学、比較教育学、学力格差、いじめ、不登校、教育改革、グローバル化と教育							
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて教育社会学、比較教育学の視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を学ぶ。具体的には、学力格差、いじめや不登校、外国籍児童の教育など、現代の学校教育を取り巻く諸問題を取り上げ、その要因や社会的背景、課題解決の方途を探る。最後に各自が関心のある教育事象を取り上げてレポートを作成する。							
達成目標(授業の目的)	教育という営みについて教育社会学、比較教育学の視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を理解し、教育事象を教育学的視点から論理的、批判的に考察することができるようになることを目的とする。							
到達目標(学修成果)	①教育学の諸分野や基礎理論についての確に理解し、概要を説明することができる。 ②現代の教育を取り巻く諸問題の背景や現状を理解し、課題を論述することができる。 ③教育事象に関するレポートの作成を通して、教育学の視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、その結果を効果的に発表することができる。							
評価方法	①授業参画(10%)、②授業時に課すリアクション・ペーパー(30%)、③授業内試験(30%)、④レポート(30%)							
評価基準	①授業参画：積極的に発言や質問を行っているか。 ②リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ③授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ④レポート：参考文献の内容を理解し、教育学の観点から論理的に論述できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	教育学とは—教育学の諸分野—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.38-41 の一読 配布プリントの復習
2	子どもを取り巻く社会の変化 —少子化・情報化・子どもの貧困—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.45-49 の一読 配布プリントの復習
3	学校教育の今日的課題(1) 学力格差	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.27-28 の一読 配布プリントの復習
4	学校教育の今日的課題(2) いじめ	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.28-30 の一読 配布プリントの復習
5	学校教育の今日的課題(3) 不登校・学級崩壊	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.30-31 の一読 配布プリントの復習
6	学校教育の今日的課題(4) 教育とジェンダー	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.140-150 の一読 配布プリントの復習
7	グローバル化と教育(1) 外国につながる子どもと国際理解教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.18-20 の一読 配布プリントの復習
8	グローバル化と教育(2) 小学校の英語教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	日本の英語教育改革を調べる 配布プリントの復習
9	グローバル化と教育(3) シティズンシップ教育	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	日本の市民教育を調べる 配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	小括・授業内試験	講義・質疑応答 授業内試験	9回目までの授業内容の復習
11	カリキュラム論—学習指導要領の変遷—	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.52-57 の一読 配布プリントの復習
12	教育方法論—教育方法の日米比較—	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	諸外国の教育方法を調べる 配布レジュメの復習
13	諸外国の教育制度	講義・ディスカッション リアクションペーパー	諸外国の教育制度を調べる 配布レジュメの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	欧米の自由教育、試験の返却と解説	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	欧米の自由教育を調べる 配布レジュメの復習

テキスト	内海崎貴子 編著『教職のための教育原理』（八千代出版）
参考書	田嶋一他著『やさしい教育原理』（有斐閣アルマ）

科目名	EDU202: 教育学 B				担当教員	青木 由紀子
開講期	秋	開講時限	火 3 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	学力、教育格差、共生と教育、インクルーシブ教育、テクノロジーと教育					
授業の概要	人間と社会にとって「教育とは何か」を問い、今日の様々な教育的課題を、子ども、家庭、学校、社会の関わりに着目して学びながら、教育学の視点や基礎理論を学ぶ。具体的には、今日の学力や教育格差の問題、多様性と共生をめぐる課題を取り上げ、それに対する教育学の応答を探る。最後に、各自が関心のある教育課題を取り上げ、レポートを作成する。					
達成目標 (授業の目的)	現代の様々な教育課題の背景や論点を、学校、家庭、社会などの様々な関わりを通して学ぶことによって、教育的観点から課題を理論的・批判的に考察することができるようになる。教育をめぐる様々な課題に対して問題意識を持ち、それを自らの言葉で表現し、他者の意見に耳を傾け学びながら、深めていくことを目的とする。					
到達目標 (学修成果)	①授業で学ぶ教育をめぐる課題や基礎理論についての確に理解し、ミニレポートにおいて、概要を説明することができる。その上で、自ら問題意識を持ち、それを継続して深めていられるようにする。 ②様々な教育的課題をめぐる歴史や背景、重要な理論や概念、さらに現在の論点等を理解し、説明することができる。 ③期末レポートの作成を通して、自ら問いを設定し、教育学的視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、自分の言葉で論述することができる。					
評価方法	①授業時に課すミニレポート (40%)、②授業内試験 (25%)、③期末レポート (35%)					
評価基準	①ミニレポート：論題について授業内容を踏まえ、論理的に考察し、自分のことばでまとめているか。 ②授業内試験：授業で学んだ知識内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ③期末レポート：自ら問題設定をし、参考文献の内容を生かしながら、教育学的観点から論理的に論述できているか。					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	教育学を学ぶ見取り図、教育をめぐる問いの立て方、深め方について	講義、グループワーク、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
2	子どもの権利と教育を受ける権利	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
3	学校という学びの場	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
4	学力とは何か	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
5	情報テクノロジーと教育	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
6	教育の機会均等と教育の格差	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
7	シティズンシップ教育	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	共生と教育① いじめ、差別と教育	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
9	共生と教育② インクルーシブ教育	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
10	共生と教育③ 多様性と教育、外国につながる子ども	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
11	小括・授業内試験	講義、質疑応答、授業内試験	試験の準備
12	まとめと期末レポート作成に向けて① －学校、家庭、社会－	グループワーク、ディスカッション、フィードバック	期末レポート作成に向けたワーク①
13	まとめと期末レポート作成に向けて② －共生と教育－	プレゼンテーション、ディスカッション、フィードバック	期末レポート作成に向けたワーク②
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括および試験の返却と解説 教育・教育学をさらに深く学んでいくために	講義、フィードバック、ディスカッション	フィードバックを読む。 ノート・配布プリントの復習

テキスト	指定しない。授業テーマに即した教育課題の基礎事項をまとめた資料や、教育に関する新聞記事等を配布する。
参考書	藤田由美子、谷田川ルミ編著『ダイバーシティ時代の教育の原理：多様性と新たなるつながりの地平へ』（ミネルヴァ書房）

科目名	ECN201: 経済学 A			担当教員	孫 明超	
開講期	春	開講時限	火 5 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	経済学、ミクロ経済学、機会費用、比較優位、需要と供給、余剰、外部性					
授業の概要	「経済学はどんなものか?」、「経済学は何の役に立つか?」というシンプルな質問に答えるため、ミクロ経済学の視点からまず基礎的な概念を学ぶ。その後に経済学の考え方を分析ツールとして、現実社会の経済現象をどのように理解すべきか、自身の経済活動をどのように行うべきかについて学ぶ。					
達成目標 (授業の目的)	自分が暮らしている社会における日常生活や社会問題を経済学的な考え方で理解する。さらに、日常の消費、貯蓄や投資などの個人の経済活動をより賢く行える。					
到達目標 (学修成果)	①教科書の該当部分を予習した上、講義を通して経済学の基礎的な概念を理解し、毎回の小テストの問題を解くことができる。(評価①) ②授業、予習または復習を通して身につけた経済学的な考え方で積極的かつ的確に発言できる。(評価②) ③世界で起こる経済現象を授業で学んだ経済学用語や理論を用いて、自分の言葉で分析・説明し、考察や自分の考えも踏まえて論述できる。(評価③)					
評価方法	①授業毎の小テスト：授業終了時まで提出 (4%×14回=56%) ②授業内での発言：授業中の質問に的確に答えられる (7%×2回=14%) ③期末レポート：1,200～1,500字のレポート (30%)					
評価基準	①授業毎の小テスト：授業毎に実施する小テスト (選択式 3～4 問) を授業終了時まで提出する。 ②授業内での発言：14回の授業のうち、最大2回分の点数が取れる。 ③期末レポート：教科書、講義中で紹介された事例を参考にした上、経済現象の事例を自らで考え、授業で扱った経済学の専門用語を使って説明できる。その上、自身の考えや考察を論述できる。(自分の論点を述べる際に、関連論文、政府報告書または新聞記事などの引用は認められるが、自分の言葉ではなく、コピーまたは引用の割合が全体の2割以上を占める場合、0点となる)					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス 経済学の十大原理 (1) 人間の意思決定	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習 (第1章 第1節)
2	経済学の十大原理 (2) 市場と政府	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習 (第1章 第2-3節)
3	経済学者らしく考える (1) 科学者の立場から	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習 (第2章 第1節)
4	経済学者らしく考える (2) 政策アドバイザーの立場から	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習 (第2章 第2-3節)
5	相互依存と交易 (貿易) からの利益 (1) 機会費用と比較優位	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習 (第3章 第1-2節)
6	相互依存と交易 (貿易) からの利益 (2) 比較優位の応用例	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習 (第3章 第3節)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	市場における需要と供給の作用（1） 市場と競争、価格と需要量の関係	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第4章 第1-2節）
8	市場における需要と供給の作用（2） 価格と供給量の関係、需要と供給の関係	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第4章 第3-4節）
9	需要、供給、及び政府の政策（1） 価格規制の効果	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第5章 第1節）
10	需要、供給、及び政府の政策（2） 税金の効果	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第5章 第2節）
11	消費者、生産者、市場の効率性（1） 消費者余剰、生産者余剰	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第6章 第1-2節）
12	消費者、生産者、市場の効率性（2） 市場の効率性と失敗	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第6章 第3-4節）
13	外部性 正の外部性と負の外部性、公共政策	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第7章）、期末レポート提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ミクロ経済学のまとめ、期末レポートの講評	講義、質疑応答	授業の振り返り

テキスト	マンキュー・N・グレゴリー著、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆訳『マンキュー入門経済学（第3版）』（東洋経済新報社）
参考書	①日経ビジネス編集『日本経済入門 第2版（日経ビジネス）』（日経 BP） ②神取道宏著『ミクロ経済学の力』（日本評論社） (微分などの数学を使ってしっかりミクロ経済学の基礎を学びたい人にはおすすめ)
その他 特記事項	①難しい数学を使わず、ミクロ経済学の入門レベルの講義を行う。 ②教科書のすべての内容を解説しきれないので、無理のない範囲で予習または復習を望む。

科目名	ECN202: 経済学 B				担当教員	孫 明超		
開講期	秋	開講時限	火 5 限		研究室	4号館 2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	経済学、マクロ経済学、国民所得、経済成長、貯蓄と投資、総需要と総供給、輸出と輸入							
授業の概要	「経済学はどんなものか?」、「経済学は何の役に立つか?」というシンプルな質問に答えるため、マクロ経済学の視点からまず基礎的な概念を学ぶ。その後に経済学の考え方を分析ツールとして、現実社会の経済現象をどのように理解すべきか、自身の経済活動をどのように行うべきかについて学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	自分が暮らしている社会における日常生活や社会問題を経済学的な考え方で理解する。さらに、日常の消費、貯蓄や投資などの個人の経済活動をより賢く行える。							
到達目標(学修成果)	①教科書の該当部分を予習した上、講義を通して経済学の基礎的な概念を理解し、毎回の小テストの問題を解くことができる。(評価①) ②授業、予習または復習を通して身につけた経済学的な考え方で積極的かつ的確に発言できる。(評価②) ③世界で起こる経済現象を授業で学んだ経済学用語や理論を用いて、自分の言葉で分析・説明し、考察や自分の考えも踏まえて論述できる。(評価③)							
評価方法	①授業毎の小テスト：授業終了時まで提出(4%×14回=56%) ②授業内での発言：授業中の質問に的確に答えられる(7%×2回=14%) ③期末レポート：1,200～1,500字のレポート(30%)							
評価基準	①授業毎の小テスト：授業毎に実施する小テスト(選択式 3～4問)を授業終了時まで提出する。 ②授業内での発言：14回の授業のうち、最大2回分の点数が取れる。 ③期末レポート：教科書、講義中で紹介された事例を参考にした上、経済現象の事例を自らで考え、授業で扱った経済学の専門用語を使って説明できる。その上、自身の考えや考察を論述できる。(自分の論点を述べる際に、関連論文、政府報告書または新聞記事などの引用は認められるが、自分の言葉ではなく、コピーまたは引用の割合が全体の2割以上を占める場合、0点となる)							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス 国民所得の測定(1) 国内総生産の測定	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習(第8章 第1-2節)
2	国民所得の測定(2) GDPの構成要素、名目GDPと実質GDP	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習(第8章 第3-5節)
3	生計費の測定(1) 消費者物価指数	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習(第9章 第1節)
4	生計費の測定(2) インフレーション	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習(第9章 第2節)
5	生産と成長(1) 生産性、経済成長と公共政策	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習(第10章 第1-3節)
6	生産と成長(2) 失業	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習(第10章 付論)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	貯蓄、投資と金融システム（1） 金融市場、貯蓄と投資	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第11章 第1-2節）
8	貯蓄、投資と金融システム（2） 貸付資金市場、貨幣システム	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第11章 第3節、付論1）
9	総需要と総供給（1） 短期の経済変動	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第12章 第1-2節）
10	総需要と総供給（2） 総需要曲線と総供給曲線	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第12章 第3-4節）
11	総需要と総供給（3） 経済変動の原因	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第12章 第5節）
12	開放マクロ経済学（1） 輸出、輸入	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第13章 第1-2節）
13	開放マクロ経済学（2） 購買力平価、為替市場	講義、質疑応答、テスト演習	授業内容をテキストで予習・復習（第13章 第3節）、期末レポート提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	マクロ経済学のまとめ、期末レポートの講評	講義、質疑応答	授業の振り返り

テキスト	マンキュー・N・グレゴリー著、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆訳『マンキュー入門経済学（第3版）』（東洋経済新報社）
参考書	①日経ビジネス編集『日本経済入門 第2版（日経ビジネス）』（日経BP） ②齊藤誠、岩本康志、太田聡一、柴田章久著『マクロ経済学 新版』（有斐閣） （数学を使ってしっかりマクロ経済学の基礎を学びたい人にはおすすめ）
その他 特記事項	①難しい数学を使わず、マクロ経済学の入門レベルの講義を行う。 ②教科書のすべての内容を解説しきれないので、無理のない範囲で予習または復習を望む。

科目名	BUS201: 経営学 A			担当教員	杉山 章	
開講期	春	開講時限	木 5 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	マネジメント、ステークホルダー、戦略と組織、国際経営					
授業の概要	ビジネスを取り巻く様々な事例を題材に経営学の基礎を、社会と企業との関係、企業活動の意義と責任、マネジメントの重要性などについて『企業や組織の視点』から学ぶ。複雑に見える社会の動きを、シンプルに何がどのようになっているのかを理解する力は、就職活動だけでなく、将来の社会人（ビジネスパーソン）にとって重要な資質の 1 つであり、これらが身につけられるように積極的に考える参加型の授業を展開する。					
達成目標 (授業の目的)	経営学の視点から社会全体と経済活動、会社組織などが、どのような関係になっているのか、様々な仕組みを理解し、自ら考察する事ができるようになる。					
到達目標 (学修成果)	1. 経営学を中心に多角的な視点から、社会と経済活動や企業との関係を理解できるようになる。 2. さまざまな経営学の基礎的な用語について説明できるようになる。					
評価方法	・授業内テスト：60% (1) 前半試験：30% (2) 後半試験：30% ・授業態度、取り組み姿勢：40%					
評価基準	・授業内テスト：講義で学んだ経営学の理論、用語などを使って説明できているか理解度を評価する。 ・授業態度、取り組み姿勢：授業毎に行う小課題（リアクションペーパー）を評価する。また講義への参加意識や受講姿勢は、状況に応じて成績評価の加点、減点の対象になる場合がある。					
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス、イントロダクション 『経営学って役に立つの？』	授業概要の全体説明 リアクションペーパー	経営学に関連した問題意識の整理
2	マネジメントとは何か？ 『組織構造と構造について』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
3	株式会社とは何か？ 『企業の形態、種類、コーポレート・ガバナンス』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
4	ステークホルダーとは何か？ 『さまざまな利害関係者と企業との関係』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
5	企業のさまざまな戦略と組織について 『フレームワークを使ってみよう』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
6	マーケティング：消費者は何を求めているか？ 『儲かるとは？損益分岐点を学ぶ』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
7	第 1 回～6 回までのまとめ <前半試験アナウンス>	講義、質疑応答 WEB 試験の実施	プリントやノートで授業内容を復習し学修成果を把握する
8	前半試験の振り返り ブランド価値とは？	回答例の説明、講義 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
9	企業倫理と情報セキュリティー 『企業のあるべき姿とは』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	国際経営と多国籍企業 『グローバル企業とは何か？』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
11	企業の社会的責任 『CSR、CSV とは何か？』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
12	持続可能な社会の実現に向けて 『SDGs と、これからの企業と社会』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
13	第 8 回～12 回までのまとめ <後半試験アナウンス>	講義、質疑応答 WEB 試験の実施	プリントやノートで授業内容を復習し学修成果を把握する
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	後半試験の振り返り 本講義全体のまとめ	回答例の説明、講義 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を復習し学修成果を把握する
テキスト	教科書は特に定めない。必要な資料は授業毎に配布する。 (事前にアップロードしている場合は、各自ダウンロードして授業に持参のこと)		
参考書	高橋 伸夫『大学 4 年間の経営学が 10 時間でざっと学べる』(KADOKAWA) 榊原 清則『経営学入門 (上) 第 2 版』(日本経済新聞出版社)		

科目名	BUS202: 経営学 B				担当教員	杉山 章	
開講期	秋	開講時限	木 5 限		研究室	4号館 2階 講師控室	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①	
キーワード	グローバル、モチベーション、リーダーシップ、ダイバーシティ、サステナビリティ						
授業の概要	ビジネスを取り巻く様々な事例を題材に経営学の基礎を、企業と顧客の関係、組織に働く人々、持続可能社会の実現と課題などについて『人と組織の視点』から学ぶ。複雑に見える社会の動きを、シンプルに何がどのようになっているのかを理解する力は、就職活動だけでなく、将来の社会人 (ビジネスパーソン) にとって重要な資質の 1 つだと言え、これらが身につけられるように積極的に考える参加型の授業を展開する。						
達成目標 (授業の目的)	経営学の視点から社会全体と経済活動、会社組織などが、どのような関係になっているのか、様々な仕組みを理解し、自ら考察する事ができるようになる。						
到達目標 (学修成果)	1. 経営学を中心に多角的な視点から、社会と経済活動や企業を理解する事ができるようになる。 2. さまざまな経営学の基礎的な用語について説明できるようになる。						
評価方法	・授業内テスト：60% (1) 前半試験：30% (2) 後半試験：30% ・授業態度、取り組み姿勢：40%						
評価基準	・授業内テスト：講義で学んだ経営学の理論、用語などを使って説明できているか理解度を評価する。 ・授業態度、取り組み姿勢：授業毎に行う小課題 (リアクションペーパー) を評価する。また講義への参加意識や受講姿勢は、状況に応じて成績評価の加点、減点の対象になる場合がある。						
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス、イントロダクション 『経営学って役に立つの?』	授業概要の全体説明 リアクションペーパー	経営学に関連した問題意識の整理
2	組織で働く、とは何か? 『組織と個人の関係について』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
3	グローバルマネジメントとは? 『グローバル企業とは何か?』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
4	人はなぜ働くのか? : 『モチベーション、やりがい、やる気』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
5	グローバル人材とは? : 『グローバルに働くとは?』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
6	キャリア形成について : 『ビジネスパーソンのあるべき姿とは』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
7	第1回～6回までのまとめ <前半試験のアナウンス>	講義、質疑応答 WEB 試験	プリントやノートで授業内容を復習し学修成果を把握する
8	前半試験の振り返り	回答例の説明、講義 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
9	人材開発とリーダーシップ : 『今日的なリーダーシップとは?』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	人的資源管理、とは何か？：『人材とは人財である』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
11	ダイバーシティ：『女性活躍とイノベーション』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
12	サステナビリティについて：『SDGsの実現に向けて』	講義、質疑応答 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習
13	第8回～12回までのまとめ ＜後半試験のアナウンス＞	講義、質疑応答 WEB 試験	プリントやノートで授業内容を復習し学修成果を把握する
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	後半試験の振り返り、本講義全体のまとめ	回答例の説明、講義 リアクションペーパー	プリントやノートで授業内容を予習・復習

テキスト	教科書は特に定めない。必要な資料は授業毎に配布する。 (事前にアップロードしている場合は、各自ダウンロードして授業に持参のこと)		
参考書	高橋 伸夫『大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる』(KADOKAWA) 榊原 清則『経営学入門 (上) 第2版』(日本経済新聞出版社)		

科目名	SWF201: 社会福祉入門 A			担当教員	栃本 一三郎	
開講期	秋	開講時限	火 4 限	研究室	4号館 2階 講師控室	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	社会問題 社会政策 多様な解決策					
授業の概要	わが国の社会保障や社会福祉の問題を幅広い見方でとらえていく。高齢者や児童、仕事や家庭の両立を図らなければならない家庭などの抱える問題にどのような解決策があるのかを諸外国の事情を紹介するビデオや NHK のニュースの DVD などを見ながら考え、市民として知っておくべき社会保障や社会福祉について国際比較の視点を持ちながら学んでいく。					
達成目標 (授業の目的)	社会福祉を専門としている学生の理解する社会福祉よりも、より幅広い視点をもって、福祉や生活を考えることが出来るようにする。住宅も雇用も教育も、そして企業や地域社会も、ともに人々の福祉にとって深い関係があることを理解する。					
到達目標 (学修成果)	新聞やテレビを見る際に、社会問題にかかわる記事やニュースを、社会政策の観点から、より正確に、深く理解できるようにするとともに、正しく説明できるようにする。					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> レポートとリアクションペーパー (50%) 授業への積極的参加 (50%) 					
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> レポートとリアクションペーパー：テキストや掲示板のファイル、ムードルの資料、および授業の内容を的確に理解し、要約できているかどうか。また、社会の問題を社会政策の視点と立場を踏まえて考えることが出来、自分の意見を論理的に記述できるかどうか。 授業内の質疑応答、議論に参加しているかどうか。(特に、教員からの質問や意見について求められた際に、応えることができる) 					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	社会福祉とは何か	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書とムードルの資料①を読んでおく。
2	社会福祉の一般的理解と社会政策について	授業の中での質疑応答	教科書とムードルの資料②を読んでおく。
3	ウェルビーイングとウェルフェアの違いについて考える	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書とムードルの資料③を読んでおく。
4	アルムス、アリメント、カリタスについて	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書とムードルの資料④を読んでおく。レポート①提出
5	アメリカのニュース番組から見た日本の福祉の仕組みを客観的に考える	教員出演番組の DVD 視聴、議論	教科書とムードルの資料⑤を読んでおく。
6	高齢者の自立を考える	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑥を読んでおく。
7	高齢者の自立の方策を、海外を例に考える	教員出演番組の DVD 視聴、質疑応答、リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑦を読んでおく。
8	高齢者の住宅改修や福祉用具の導入などの例を海外取材の番組を見て考える	教員出演番組の DVD 視聴、質疑応答、リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑧を読んでおく。 レポート②提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	ドイツの介護保険制度と高齢者の自己決定に合わせたケアのあり方を映像から理解する	教員出演番組の DVD 視聴、質疑応答、リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑨を 読んでおく。
10	日本で介護をめぐる問題について、NHK ドラマを見て考える	教員出演番組の DVD 視聴、質疑応答、リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑩を 読んでおく。
11	介護殺人のニュース番組を視聴し、感情労働と介護をしている男性たちの取り組みについて考える	教員出演番組の DVD 視聴、質疑応答、リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑪を 読んでおく。
12	ドイツ取材の映像を見ながら、コミュニティサービスや助け合い活動による児童福祉、環境整備、グループ活動の高揚、青年の社会貢献について考える	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑫を 読んでおく。 レポート③提出
13	育児の問題、子供の貧困問題、社会的養護、生活困窮、障害者の雇用制度、サラリーマンの離職問題への制度的対応を考える	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書とムードルの資料⑬を 読んでおく。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	今までの授業と参考資料等から学んだ新しいこれからの社会福祉のあり方について考える	授業中での質疑応答と 課題の提示	今までの学びの復習

テキスト	栃本一三郎編『新しい視点で学ぶ社会福祉』（光生館）
参考書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門改訂版』（有斐閣アルマ）

科目名	SWF202: 社会福祉入門 B				担当教員	寺田 誠
開講期	秋	開講時限	金 2 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	社会福祉の広がりや深さ、社会政策、主体としての社会福祉、客体としての社会福祉					
授業の概要	この社会福祉入門 B では、社会福祉についての基礎的理解のために入門的な授業を行います。テキストに沿って基本的な概念や枠組みを理解していくことが中心となりますが、正確で確実な知識 (の取得法)、大手企業や大学進学、留学を目指す学生にとっても必須の知識としての社会福祉、女性にとっても知っておくべき社会保障や社会福祉の知識を教授します。					
達成目標 (授業の目的)	従来の社会福祉教育で行われてきた狭義の社会福祉ではなく、①社会保障も視野においた広義の社会福祉について現状、制度、法律について基礎的知識を得るとともに、②自分の言葉でも説明できるようになる。③さらに新聞で取り上げられる内外の社会福祉や社会保障、社会問題の記事についてある程度専門的視点から読み解くことができるようになる。					
到達目標 (学修成果)	授業および教科書に書かれている事柄を自分で調べ、理解し、さらに他者に説明できるようになる。また自分で考え、世間の社会福祉や社会保障に対する捉え方とは異なる読み方が出来るようになる。学問としての社会福祉という視点を得られるようになる。					
評価方法	①毎週の新聞の切り抜きとコメント (20%)、②授業毎のリアクションペーパー (30%)、③期末課題 (2,500 字以上レポート) (50%)					
評価基準	評価方法の割合に応じた合計点によって成績評価を行う。①国内外の社会福祉や社会保障、社会問題の新聞記事を切り抜いて提出かつコメント (200 字以上) を付ける。提出回数とコメントの妥当性によって評価する。②自分なりにその日 (回) の学習内容やキーワードは何だったかを確認しながら記述する (疑問点は次の授業で解説する)。提出回数とコメントの内容によって理解度や授業参加度を見て評価する。③配付資料や紹介した文献をもとに自分が関心を寄せるテーマについて、講義やディスカッションで得た視点やアプローチを使いながら自分の考えをきちんと論じることができるかを判断し評価する。					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクションー講義の進め方、テキストの読み方	講義、ディスカッション	テキスト序章を予習
2	社会福祉とは何か①ー社会福祉と社会保障、社会福祉の基礎概念	講義、新聞切り抜き提出 (以下「新聞」)	テキスト第 1 章第 1 節を予習、配付資料の復習
3	社会福祉とは何か②ー日本における社会福祉の内容と展開、歴史的連続性	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第 1 章第 2 節を予習、配付資料の復習
4	社会福祉とは何か③ーソーシャルポリシー、ニーズの種類、社会福祉の資源	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第 1 章第 3-4 節を予習、配付資料の復習
5	社会福祉とは何か④ー現金給付と現物給付、普遍主義と選別主義、シチズンシップ	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第 1 章第 4 節を予習、配付資料の復習
6	社会福祉の動向①ー少子高齢社会、人口減少社会、これからの人口推計	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第 2 章第 1 節を予習、配付資料の復習
7	社会福祉の動向②ー在宅福祉、地域福祉、地域包括ケアシステム、NPO	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第 2 章第 2-3 節を予習、配付資料の復習
8	社会福祉の動向③ー社会福祉 8 法改正、社会福祉の基礎構造改革	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第 2 章第 4-5 節を予習、配付資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	社会福祉の法と行財政①－社会福祉の法制度、社会保障、社会福祉6法	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第1節を予習、配付資料の復習
10	社会福祉の法と行財政②－社会保障給付費、国民負担率、税と社会保障	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第2節を予習、配付資料の復習
11	社会福祉の供給体制①－政府部門、民間非営利部門、民間営利部門	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第1-2節を予習、配付資料の復習
12	社会福祉の供給体制②－供給体制の変遷と今後、公私関係、政府間関係	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第3-4節を予習、配付資料の復習
13	利用者の視点からみたサービスの利用支援	講義、リアクションペーパー、新聞	テキスト第7章を予習、配付資料の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめと期末課題提出	講義、ディスカッション、新聞	テキスト序章を今一度復習

テキスト	栃本一三郎編（2006）『新しい視点で学ぶ社会福祉－保育士を志す人のために』（光生館）
参考書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之（2013）『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門改訂版』（有斐閣アルマ）

科目名	JRN202: マスメディア論 A				担当教員	吉武 希
開講期	春/秋	開講時限	(春) 月 4 限 (秋) 月 3 限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	コミュニケーション論、メディアの歴史と理論、メディアの現在					
授業の概要	現在まで、メディアがどのように発展してきたか、社会的にどのような役割を担ってきたかといったマスメディアに関する歴史とコミュニケーション研究の基礎的な概説を行う。その上で、現代社会における新聞・出版・放送・通信といったメディア別の特徴やその役割、影響について検証する。					
達成目標 (授業の目的)	メディアの歴史や基礎的な理論、現代社会におけるメディアの役割や影響について理解する。その上で、メディアが関係する現代社会の諸問題について、分析を行い、批判的に考えることができるようになる。					
到達目標 (学修成果)	本科目を通じて、メディアの歴史や理論を理解することで、客観的視点から現代社会における諸問題の批判的思考と考察能力を身につける。					
評価方法	①Reaction Paper (20%) ②授業への積極的参加 (20%) ③期末レポート (30%) ④授業内試験 2回 (30%)					
評価基準	①講義内容を踏まえて自分の意見を論理的に述べられているか。②グループワーク等に積極的に参加し、指定テーマについてのディスカッションでは、学術的な発表ができていないか。③講義内容でもあるマスメディア論を題材としたテーマについて、参考文献を用いる等、データに基づいて論理的に述べられているか。④授業内容について内容を理解し、設問に適切に回答ができていないか。					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション マスメディア論の概論	講義	第1回授業内容の復習
2	マス・コミュニケーション・メディアの進化	講義、Reaction Paper	第2回授業内容の復習
3	メディアの日本史①：近代	講義	第3回授業内容の復習
4	メディアの日本史②：戦後	講義、Reaction Paper	第1～4回授業内容の総復習
5	第1回 授業内試験 解答・解説 メディア理論への導入	授業内試験 講義	授業内試験の振り返り メディア理論の予習
6	メディア理論①：メディア効果論	講義	第6回授業内容の復習
7	メディア理論②：メディアと政治	講義	グループワークの準備
8	メディア理論③：カルチュラルスタディーズ	講義、Reaction Paper	メディア理論の総復習 グループワークの準備
9	グループワーク：テーマ (メディア理論)	グループワーク	メディア理論の総復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	第2回 授業内試験 解答・解説 メディアの現在（番外編）：メディアと教育	授業内試験 講義	第11回授業のディスカッション準備 期末レポート準備
11	メディアの現在①：新聞・出版	講義、ディスカッション	第12回授業のディスカッション準備、期末レポート準備
12	メディアの現在②：放送（テレビ・ラジオ）	講義、ディスカッション	第13回授業のディスカッション準備、期末レポート準備
13	メディアの現在③：通信（インターネット）・SNS、期末レポート提出	講義、Reaction Paper ディスカッション	第14回授業のディスカッション準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	「メディアの現在」まとめ、総括	講義、ディスカッション	振り返りアンケート調査 まとめ学習

テキスト	特定のテキストを指定しない。講義内容によっては参考書や講義中に紹介する追加の参考書を基に作成したレジュメを配布する。
参考書	春原昭彦・武市武雄 [編] 『ゼミナール 日本のマス・メディア第3版』（日本評論社） 水越伸 『21世紀メディア論』（放送大学教育振興課）

科目名	JRN203: マスメディア論 B				担当教員	吉武 希	
開講期	春/秋	開講時限	(春) 月 5 限 (秋) 月 4 限		研究室	4号館2階 講師控室	
分類	選択	単 位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①	
キーワード	コミュニケーション論、マスコミュニケーション論、ジャーナリズム						
授業の概要	マスメディア論、マスコミュニケーション論の基礎的な概論を基にメディアやインターネットの普及がもたらした社会問題等を概説する。その上で、現代社会における諸課題についてメディアが社会に対して果たす、また果たすべき責任と役割について考察する。						
達成目標 (授業の目的)	メディアの発展と社会のコミュニケーションの関係性を理解し、現代におけるマスメディアやグローバルメディア、特にコンテンツプロバイダと呼ばれる事業者の社会責任について、意識し批判的に考えることができるようになる。						
到達目標 (学修成果)	本科目を通じて、我々が社会で行っているコミュニケーションとメディアの関係を理解することで、メディアやインターネット上に流れている情報について、正確な情報を読み取る能力や、批判的思考を身に付ける。						
評価方法	① Reaction Paper (40%) ② 授業への積極的参加 (30%) ③ 期末レポート (30%)						
評価基準	①講義内容を踏まえて自分の意見を論理的に述べられているか。②グループワーク等に積極的に参加し、指定テーマについて学術的なプレゼンテーションができていないか。③講義内容でもあるマスメディア論を題材としたテーマについて、参考文献を用いる等、根拠のあるデータに基づいて論理的に述べられているか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション マスメディア概論	講義、Reaction Paper	第1回授業内容の復習
2	表現の自由とジャーナリズム	講義	第2回授業内容の復習
3	世論とメディア	講義、Reaction Paper	第3回授業内容の復習
4	社会的コミュニケーションとメディア	講義	第4回授業内容の復習
5	パーソナルコミュニケーションとメディア	講義、Reaction Paper	第5回授業内容の復習
6	グローバル化とメディア	講義	第6回授業内容の復習 プレゼンテーションの準備
7	ソーシャルメディアのコミュニケーション	講義、Reaction Paper	第7回授業内容の復習 プレゼンテーションの準備
8	メディア・リテラシー	講義	第1～8回授業内容の復習 プレゼンテーションの準備
9	発表テーマ: メディアと政治・経済	プレゼンテーション、 Reaction Paper	プレゼンテーションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	発表テーマ：メディアと戦争	プレゼンテーション、 Reaction Paper	プレゼンテーションの準備
11	発表テーマ：メディアと現代社会	プレゼンテーション、 Reaction Paper	プレゼンテーションの準備
12	発表テーマ：メディアと教育	プレゼンテーション、 Reaction Paper	プレゼンテーションの準備
13	発表テーマ：メディアとフェイクニュース	プレゼンテーション、 Reaction Paper	期末レポートの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ、総括、期末レポート提出	講義	振り返りアンケート調査 まとめ学習

テキスト	特定のテキストを指定しない。講義内容によっては参考書や講義中に紹介する追加の参考書を基に作成したレジユメを配布する。
参考書	春原昭彦・武市武雄 [編] 『ゼミナール 日本のマス・メディア第3版』（日本評論社） 浜田純一、田島泰彦、桂敬一編 『新訂新聞学』（日本評論社）

科目名	COM101: 基礎コンピューター演習				担当教員	森本 貴之		
開講期	春	開講時限	火2限 火3限		研究室	4号館2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-②	
キーワード	コンピュータ, 情報リテラシー, 情報処理, Word, Excel, PowerPoint							
授業の概要	コンピュータを利用して、情報を収集・処理し、文書にまとめ、プレゼンテーションを行うための基礎的な技法について実習を通じて学ぶ。また、ネット上におけるマナーやセキュリティをはじめとする、知っておくべき情報リテラシーについて学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	この授業は、大学生そして社会人として要求される情報リテラシーおよびコンピュータを利用した情報処理の基本を身につけることを目標とする。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット上におけるセキュリティの意識付けやマナーを身につけ、実践できるようになる。 ・ 情報分野における基本的かつ汎用的なリテラシーを習得する。 ・ 文書作成、データ処理、プレゼンテーションのためのソフトウェアの基本操作を習得し、実践できるようになる。 							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①授業ごとの演習課題(合計8回)と②プレゼンテーションの相互評価:55% ・ 単元末の総合課題:45%(内訳: <ul style="list-style-type: none"> ③Wordを用いたレポートの作成15% ④Excelを使用したデータ処理15% ⑤PowerPointを使用したプレゼンテーションの実演15%) 							
評価基準	①授業ごとの演習課題:その日の授業内容がどれだけ理解できたか。 ③レポート作成:必要な情報を収集し、適切な書式や表現でまとめられるかどうか。 ④データ処理:様々なデータに対して意図した処理が実現できるかどうか。 ⑤プレゼンテーションの実演と②相互評価:集めた情報を基に発表ための資料を作成し、どれだけ伝えることができるかどうか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	PC(Windows)の基本操作	解説、PC実習	実習で使用するログインID、パスワードの準備
2	Wordによる文書作成(1) Wordの基本操作、基本的な文書の作成	解説、PC実習	第2回授業の演習課題
3	Wordによる文書作成(2) 文書の編集、書式設定等	解説、PC実習	第3回授業の演習課題
4	Wordによる文書作成(3) 表の作成・編集、図の挿入等、総合演習	解説、PC実習	単元末の総合課題
5	Excelによる表計算(1) Excelの基本操作、表の作成・編集	解説、PC実習	第5回授業の演習課題
6	Excelによる表計算(2) 関数の利用等	解説、PC実習	第6回授業の演習課題
7	Excelによる表計算(3) グラフの作成	解説、PC実習	第7回授業の演習課題
8	Excelによる表計算(4) データ処理と統計処理	解説、PC実習	第8回授業の演習課題

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	Excelによる表計算（5） 条件付き書式等、総合演習	解説、PC実習	単元末の総合課題
10	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成（1）基本操作	解説、PC実習	第10回授業の演習課題
11	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成（2）アニメーション設定等	解説、PC実習	第11回授業の演習課題
12	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成（3）テーマ、背景等	解説、PC実習	単元末の総合課題（資料作成、発表練習）
13	PowerPointによるプレゼンテーションの実演（1）	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	PowerPointによるプレゼンテーションの実演（2）	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
テキスト	なし。担当教員が作成した資料（電子ファイル）を Moodle で配付する。		

科目名	COM101: 基礎コンピュータ演習				担当教員	津垣 正男
開講期	秋	開講時限	火4限 金4限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-②
キーワード	情報処理, 情報リテラシー, Office, Word, Excel, PowerPoint, HTML					
授業の概要	大学生として必要最低限のコンピュータスキルを身に付けるための演習であり, 実際にパソコンを動かしながら PC の基本的な操作と情報リテラシーを学ぶ. 具体的にはパソコンの基本(主にタイピング), Word, Excel, PowerPoint の基本的な操作, HTML の学習を通じてインターネットの仕組みを学ぶ.					
達成目標(授業の目的)	① タッチタイピングを身につける. ② Word, Excel, PowerPoint の基本的な操作を身につける. ③ Web ページ作成の基礎を身につける.					
到達目標(学修成果)	① 短時間に正確な入力作業を行うことができる. ② Word, Excel, PowerPoint の基本的な機能を用いた資料(レポート, 資料の整理, 発表資料)の作成を行うことができる. ③ シンプルな Web ページを作成することができる.					
評価方法	① タイピング課題(10%): P 検の無料タイピング練習のインターネット版(ソーシャル投稿非対応)の英語入力を用いた測定を行う. 評価における点数は設けず, ある基準を超えることを必須とする. 測定は何度も行う. web サイト: http://www.pken.com/tool/typing.html ② 演習課題(50%): 毎回の授業においてその回の理解度をはかるための演習課題を課す. また, PowerPoint を用いたプレゼンテーションも行ってもらう. ③ レポート課題(40%): 授業を Word, Excel, PowerPoint, HTML の単元に分け, 各単元の最後にレポートを課す.					
評価基準	① タイピング課題: 3 分間で正打率 95%以上, 文字数 390 以上を基準とする. ② 演習課題: 指示通りに提出ファイルが作成されているかどうかをみる. PowerPoint の実演においては, 発表準備が十分にできているかどうかをみる. ③ レポート課題: 指示通りに作成されているかどうかをみる.					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は, 平均 190 分が求められる.					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	PC (Windows) の基本操作	PC 実習, 解説	アカウントの準備
2	キーボード操作とタイピング: タイピング演習(1)	PC 実習, 解説	前回内容の復習
3	Word による文章作成: 基本的な操作方法を学ぶ	PC 実習, 解説	前回内容の復習
4	Word による文章作成: 総合演習, タイピング演習(2)	PC 実習, 解説	前回内容の復習
5	Excel による表計算: 関数の扱い, 相対参照, 絶対参照 など	PC 実習, 解説	Word のレポート提出
6	Excel による表計算: グラフの作成・複数のシートの操作など	PC 実習, 解説	前回内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	Excelによる表計算： データベースの操作など	PC実習，解説	前回内容の復習
8	Excelによる表計算：ピボットテーブルの操作など，タイピング演習（3）	PC実習，解説	前回内容の復習
9	PowerPointによる資料の作成： 基本的な操作など	PC実習，解説	Excelのレポート提出
10	PowerPointによる資料の作成： 総合演習，タイピング演習（4）	PC実習，解説	前回内容の復習
11	PowerPointによる資料の作成： プレゼンテーションの実演	PC実習，解説	発表の準備 PowerPointのレポート提出
12	HTMLによるWebページの作成： HTML文章の基本構造を学ぶ	PC実習，解説	前回内容の復習
13	HTMLによるWebページの作成： 画像の挿入，リンクの張り方など	PC実習，解説	前回内容の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	HTMLによるWebページの作成： 総合演習，タイピング演習（5）	PC実習，解説	前回内容の復習 HTMLのレポート提出
テキスト	『学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint』（FOM 出版）		

科目名	MTH201: 数学 A				担当教員	津垣 正男		
開講期	秋	開講時限	火 5 限		研究室	4号館 2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	数学, 適性検査, SPI, 非言語能力, 数的処理							
授業の概要	① 適性検査・SPIにおいて出題される非言語能力(数学)の演習と課題の解説を行う。 ② 英語で書かれた数学の問題(中学の内容)の演習と課題の解説を行う。							
達成目標 (授業の目的)	① 適性検査・SPIにおいて必要とされる数学の知識が何であるかを知る。 ② 英語の数学用語に慣れる。							
到達目標 (学修成果)	① 適性検査・SPIの数学の問題を短時間で解くことができるようになる。 ② 中学の範囲までの英語で書かれた数学の問題を解くことができるようになる。							
評価方法	① 毎回の授業での課題: 60% ② 授業内適性検査・SPI 対策試験 (2回): 40%							
評価基準	① 毎回の課題の評価は「考え方が理解できているかどうか」を重視するので、途中計算と説明の記述を求める。 ② 実際の適性検査・SPIと同様の問題を用いた試験を2回行う。ただし、考え方の確認も行うので、途中計算と説明の記述の確認も行う。詳細は初回授業で説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	推論	演習, 質疑応答	ノートの準備
2	図形の読み取り, 集合	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
3	英語での問題演習: 基本用語の紹介, 多項式, ルートの計算	演習, 質疑応答	配布プリントの予習
4	順列, 組み合わせ	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
5	確率	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
6	英語での問題演習: 2次方程式, 関数	演習, 質疑応答	配布プリントの予習
7	第1回適性検査・SPI対策授業内試験 試験の解説	試験, 試験の解説	ここまでの内容の復習
8	料金の割引, 損益算, 分割払い, 仕事算	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
9	英語での問題演習: 図形に関する問題演習① (相似, 合同等)	演習, 質疑応答	配布プリントの予習
10	速さ, 距離, 時間	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	割合，比，代金の清算	演習，質疑応答	ここまでの内容の復習
12	英語での問題演習：図形に関する問題演習②（円，ピタゴラスの定理等）	演習，質疑応答	配布プリントの予習
13	整数の推測，グラフの領域，物の流れと比率，装置と回路	演習，質疑応答	ここまでの内容の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	第2回適性検査・SPI 対策授業内試験 試験の解説	試験，試験の解説	ここまでの内容の復習

テキスト	<i>THE SHIN-CHU-MON mathematics for 9-th grade</i> （教育開発出版社）
参考書	SPI ノートの会（著）津田秀樹（著）『これが本当の SPI3 だ！』（洋泉社）

科目名	MTH202: 数学 B				担当教員	津垣 正男
開講期	秋	開講時限	金 5 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単 位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	数学, 統計学, 微積分学					
授業の概要	① 統計学とは、大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータの性質を調べることで元の大きなデータの性質を推測する方法を体系化したものである。本授業では大学における統計学の入門コースで学ぶ内容（授業計画参照）を扱う。 ② 高校の数学 II における微積分学の基礎的な内容を扱う。					
達成目標 (授業の目的)	① 統計学とは何か、統計学を用いると何ができるようになるのかを知る。 ② 微積分学の基礎計算力を養成することを目標とする。					
到達目標 (学修成果)	① 収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算することでデータの性質を把握することができる。(記述統計) ② 大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータに対し推定・検定の計算をすることで元の大きなデータの性質を把握することができる。(推測統計) ③ 基本的な関数(多項式関数, 指数関数, 対数関数, 三角関数)に関する微積分の計算ができる。					
評価方法	① 各回のテーマに関する提出課題: 60% ② 授業内試験 (2回): 40%					
評価基準	① 授業の内容を的確に理解し、記述統計に関するデータの処理を正しく行えるかどうか ② 授業の内容を的確に理解し、推測統計に関するデータの処理を正しく行えるかどうか ③ 授業の内容を的確に理解し、微積分に関する計算を正しく行えるかどうか					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	統計学: 平均と分散 微積分学: 関数	演習, 質疑応答	ノートの準備
2	統計学: 信頼区間 (母分散が既知の場合)	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
3	微積分学: 指数関数, 対数関数, 三角関数	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
4	統計学: 信頼区間 (母分散が未知の場合)	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
5	微積分学: 多項式関数の微分の計算	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
6	ここまでの内容の復習 第 1 回授業内試験	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
7	第 1 回授業内試験の解説	試験の解説, 演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
8	統計学: カイ 2 乗検定	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習
9	微積分学: 基本的な関数の微分の計算	演習, 質疑応答	ここまでの内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	統計学：母平均の検定	演習，質疑応答	ここまでの内容の復習
11	統計学：対応のある平均の差の検定	演習，質疑応答	ここまでの内容の復習
12	微積分学：基本的な関数の積分の計算	演習，質疑応答	ここまでの内容の復習
13	ここまでの演習 第2回授業内試験	演習，質疑応答	ここまでの内容の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	第2回授業内試験の解説	試験の解説，演習， 質疑応答	ここまでの内容の復習

テキスト	向後千春／富永敦子 著『統計学がわかる』（技術評論社）
------	-----------------------------

科目名	PSY201: 心理学 A				担当教員	奥村 桃子
開講期	春/秋	開講時限	木2限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①
キーワード	心理学の歴史、心理学研究法、認知心理学、パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学					
授業の概要	心理学の主要な領域を概観しながら、人間の心について心理学的視点から理解を深めます。基本的には講義形式ですが、テーマによりDVDなどの視聴覚教材を使用したり、実際に体験することで理解を深めます。また、授業内で関連のある話題や参考図書も紹介します。					
達成目標(授業の目的)	心理学という学問の基本的な考え方や研究方法、学問成立の背景などを理解するとともに、各々の基本的な知識を習得し、心理学的視点に基づいた考え方を展開できるようになることを目標としています。					
到達目標(学修成果)	心理学を通じて、人のこころや行動の意味について理解を深める。さらに、基礎的な心理学領域の知見から、日常生活における人間理解や社会生活に応用して思考できるようになることを目標とします。					
評価方法	毎回の授業態度とリアクションペーパー50%、授業内試験2回50%					
評価基準	リアクションペーパーによって、授業で学習したポイントを理解し授業内容を踏まえた自らの考えを記述できているかどうか、質問・疑問を通じて積極的に授業に参加しているかどうか、また授業内で行う試験によって学習内容を理解しているかどうかを評価します。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション: 授業の進め方 心理学概論	講義、質疑応答、リアクションペーパー	初回授業の復習と研究法についての事前学習
2	心理学の歴史	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と次回の授業準備
3	心理学の研究方法	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と認知についての事前学習
4	認知心理学 認知とは?	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習とパーソナリティについての事前学習
5	パーソナリティ心理学 パーソナリティとは?	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と社会心理学についての事前学習
6	社会心理学 社会心理学とは?	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第1～6回の授業の復習(小テスト準備)
7	第1回授業内試験実施 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の見直しと臨床心理学についての事前学習
8	臨床心理学(1) 臨床心理学とは?	講義、質疑応答、リアクションペーパー	試験の見直しと心理アセスメントについての事前学習
9	臨床心理学(2) 心理アセスメント/心の病気Ⅰ	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と心の病気についての事前学習
10	臨床心理学(3) 心の病気Ⅱ	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と発達障害についての事前学習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	臨床心理学（4） 発達障害とは？Ⅰ	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第8～12回の授業の復習（小テストの準備）
12	臨床心理学（5） 発達障害とは？Ⅱ	質疑応答、視聴覚教材、レポート作成	第8～12回の講義のまとめと振り返り
13	第2回授業内試験実施 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の見直し、第1～13回の授業の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	全体のまとめ、質疑、補足	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第1～13回の講義のまとめと振り返り

テキスト	指定しない。授業に関連するプリントを配布する。
参考書	岩壁茂ほか著『臨床心理学入門』（有斐閣アルマ） 道又薺ほか著『認知心理学』（有斐閣アルマ） サトウタツヤほか著『心理学入門』（有斐閣アルマ）

科目名	PSY202: 心理学 B				担当教員	奥村 桃子		
開講期	春/秋	開講時限	木3限		研究室	4号館2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	生涯発達、認知発達、対人関係、乳幼児期							
授業の概要	発達心理学研究に基づいて、人の発達について多角的に理解することを目指し、胎児から老人にわたる成長発達とその過程について学びます。各発達段階の特徴や発達のメカニズムについて解説します。基本的には講義形式ですが、本授業での学びを深め日常生活に役立てることができるように、視聴覚教材も使用します。							
達成目標(授業の目的)	発達心理学の基本的な用語や知識を習得し、人の発達のメカニズムについて理解することを目的としています。また、生命誕生から人間がどのように発達し、年齢を重ねていくのかについて基本的な発達心理学的思考を身につけ、発達心理学の臨床的な問題を身近な問題として考えるための基礎知識を学びます。							
到達目標(学修成果)	人間を発達心理学の視点から理解すること、現在の心の在り方を一生涯という長い時間軸の中で理解し、自分自身の現在を振り返り展望して考えることができるようになることが目標です。							
評価方法	毎回の授業態度とリアクションペーパー 50%、授業内試験 2回 40%、授業内レポート 1回 10%							
評価基準	積極的な質問や発言等の授業態度、および授業内容を踏まえた自らの考えをリアクションペーパーに記述できているかを評価対象とします。また、授業内試験では学習したポイントや心理学用語を正確に理解し、適切に記述できるかどうかを評価します。授業内レポートでは自らの考えや発見を、視覚教材を踏まえて記述できているかが評価基準となります。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション: 授業の進め方等 生涯発達心理学とは?	講義、リアクションペーパー	初回授業の復習と遺伝要素/環境要素どちらが強く影響しているか考える
2	発達の可塑性 遺伝と環境	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習とピアジェ/エリクソンについて事前学習
3	発達モデル ピアジェとエリクソン	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と胎児/新生児についての事前学習
4	認知発達の基盤1 胎児と新生児	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と胎児/新生児を具体的にイメージする
5	認知発達の基盤2 胎児と新生児の実態	質疑応答、視聴覚教材、レポート作成	前回の授業復習と乳児についての事前学習
6	認知発達の基盤3 乳児期	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と幼児についての事前学習
7	認知発達の基盤4 幼児期	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と幼児について具体的にイメージしてみる
8	認知発達の基盤5 幼児期の実態	質疑応答、視聴覚教材	第1～7回の授業の復習(小テスト準備)
9	第1回授業内試験 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の見直しと乳幼児の遊びについての事前学習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	他者との関係性のはじまり 遊び	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と学校における認知能力についての事前学習
11	認知能力の生涯発達1 学校での学習	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と成人・高齢期の認知能力について事前学習
12	認知能力の生涯発達2 成人後・高齢期の認知能力	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第10～12回の授業の復習 (小テストの準備)
13	第2回授業内試験 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の見直し、第1回～13回の授業の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	全体のまとめ、質疑、補足	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第1～13回の講義のまとめと振り返り

テキスト	指定しない。授業に関連するプリントを配布する。
参考書	鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ著『生涯発達心理学』（有斐閣アルマ）

科目名	PED100: 体育理論 (ウエルネスと身体)			担当教員	岸 秀忠	
開講期	春/秋	開講時限	(春) 金 2/3 限 (秋) 金 2/3 限	研究室	4号館2階 講師控室	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-③
キーワード	健康、スポーツ、身体構造、発育発達、トレーニング					
授業の概要	ウエルネスとは、健康を身体の側面だけでなくより広範囲の視点から捉えた健康観である。この授業では、ウエルネスの観点から豊かな生涯を生きるために健康と身体についての基礎的知識を学び、自らの健康と身体に向き合い行動することを学ぶ。					
達成目標 (授業の目的)	健康の保持・増進に必要な基礎的知識を獲得し、自らの健康観および生活習慣を顧みて健康観を構築するとともに、身体および運動に関する知識・理解力を深めることを目的とする。					
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する知識・理解を深め、自らの健康に関連する問題を発見・整理することができるようになる。 身体について知識・理解を深め、自らに適した行動を選択して日常生活に導入することができるようになる。 運動に関する知識を身につけ、ウエルネスの観点から自らの生涯を豊かにする取り組みができるようになる。 					
評価方法	① 授業への積極的参加：20% ② リアクションシート：20% ③ 中間レポート：25% ④ 期末レポート：35%					
評価基準	① 授業への積極的参加 授業への出席態度、発言、ディスカッションでの積極性。 ② リアクションシートの提出 毎回の授業内容を理解し、自らの考察を踏まえて記述されているか。 ③④ 中間レポートおよび期末レポート 授業内容を理解し、知識として身につけているか。また自らの考えや意見を記述できているか。自身の健康状態を客観的に捉え、授業で学んだことから考察ができているか。 ②～④いずれも研究倫理に反する場合は0点となる。(友人の課題を写す、ネット情報等から無断引用する等)					
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス、ウエルネスとは (授業概略の説明)	講義・ディスカッション・リアクションシート	シラバスの確認 配布資料の確認
2	健康の概念と我が国の健康づくりの施策 (日本における健康づくり施策の変遷)	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 (自筆ノートまとめ)
3	生活習慣病と健康 (生活習慣病の概要とその予防)	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 (自筆ノートまとめ)
4	食事と健康 (必要な栄養素と食習慣)	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 (自筆ノートまとめ)
5	睡眠と健康 (睡眠の役割と適切な睡眠とは)	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 (自筆ノートまとめ)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	身体活動と健康 （自らの身体活動の把握と必要性）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ）
7	運動トレーニング （トレーニングの種類と方法）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ） 中間レポート作成
8	ストレスマネジメントと健康 （ストレス障害とその予防）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ）
9	身体の発育発達 （身体における諸器官の発育と発達）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ）
10	身体の構造 （骨格構造、筋肉、神経）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ）
11	体組成と健康 （体組成測定と肥満の概念）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ）
12	女性の身体と運動の関わり （運動における性差と性機能の関わり）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ）
13	救急法 （応急処置と心肺蘇生法）	講義・ディスカッション・リアクションシート	配布資料の復習 （自筆ノートまとめ）
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括 （本講のまとめ）	講義・リアクションシート	全授業の振り返り 期末レポート作成

テキスト	特定のテキストは指定しない。授業資料を適宜配布する。
参考書	石河利寛 著『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院）
その他 特記事項	自らの健康に関心を持ち、日々の健康管理に努め、心身ともに万全な状態で授業に臨んでほしい。

科目名	PED113: 体育 A				担当教員	岸 秀忠
開講期	春/秋	開講時限	火 2 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-③
キーワード	スポーツ、ネット型、健康、身体構造					
授業の概要	この授業は、ラケット操作を伴うネット型スポーツを中心とした実技授業である。健康づくりや運動の仕組み、各種目のルールを学び目的に応じた方法を理解することで、生涯にわたってスポーツや運動を親しむための資質や能力を育む。また、「体育理論 (ウエルネスと身体)」の講義内容と併せることで、自らの健康の維持および増進、生活習慣病に関する理解を深める。					
達成目標 (授業の目的)	スポーツをする上で重要となる種目の専門性に応じた競技特性を学び、スポーツおよび運動を通じて豊かなスポーツライフを継続するために必要な資質や能力を高める。また協同学習を通じてコミュニケーションスキルやリーダー&フォロワーシップの重要性を考え、創意工夫するとともに、運動技能の習熟にあわせてより優れた状態を目指すことを目的とする。					
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・体調を管理して万全な状態で授業に臨み、周囲の環境に応じて行動をとることができる。 ・授業に対して目標や目的を明確にして学びを深めることができる。 ・健康づくりや運動のしくみ、各種目のルールを学び、目的に応じた方法を理解することができる。 ・運動技能の習熟とともに、より優れた状態を目指して努力することができる。 ・設定された課題を基に、自身の態度、行動、発言に加えて、自身のこころと身体の変化に関して振り返ることができる。 					
評価方法	①授業への積極的参加 <ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席態度、発言、円滑な授業運営に対する積極性 30% ・協調性 20% ②能力 <ul style="list-style-type: none"> ・技能習得への向上心 15% ・技能習得への創意工夫 15% ③期末レポート 20%					
評価基準	①授業への積極的参加 <ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席態度、発言、円滑な授業運営に対する積極性 運動に適した服装で受講し、準備運動・整理体操を行い健康管理に努めることができる。また準備片付けなど円滑な授業運営に対し積極的に行動することができる。 ・協調性 仲間とのコミュニケーションやリーダー&フォロワーシップの重要性を考え行動することができる。 ②能力 <ul style="list-style-type: none"> ・技能習得への向上心 運動技能の習熟とともにより優れた状態を目指して努力することができる。 ・技能習得への創意工夫 運動の仕組み、各種目のルールを学び、目的に応じた方法を理解し創意工夫することができる。 ③期末レポート 設定された課題を基に、自身の態度、行動、発言に加えて、自身のこころと身体の変化に関して振り返り自身の健康状態を客観的に捉え、考察することができる。					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンスおよびレクリエーション (授業内容、注意事項、評価基準の説明)	ペアワーク グループワーク	シラバスを理解し、配布資料 で授業内容を復習する
2	レクリエーションスポーツ① (頭と身体を動かす体づくり運動)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
3	レクリエーションスポーツ② (ミニナビゲーション・エクササイズ)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
4	テニス① 基礎技術の習得 (ボールの感覚を身につける)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
5	テニス② 基礎技術の習得 (基本ストロークの習得、サービス)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
6	テニス③ ゲーム (ダブルス)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
7	バトミントン① 基礎技術の習得 (基本ストロークの習得)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
8	バトミントン② 基礎技術の習得とゲーム (ルールの理解とシングルス、ダブルスの試合)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
9	バトミントン③ ゲーム (シングルス・ダブルス含めた団体戦)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
10	バトポン④ ゲーム (ルールの理解とシングルス、ダブルスの試合)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
11	バトポン⑤ ゲーム (シングルス・ダブルス含めた団体戦)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
12	卓球① 基礎技術の習得 (ボール感覚を身につける)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
13	卓球② 基礎技術の習得 (基本的な打ち方と構え)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に 練習する。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	卓球③ ゲーム (ダブルス)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、期末レポ ートを作成する。

テキスト	資料を適宜配布
参考書	東根明人『コーディネーション運動 ボール運動編』（明治図書） 池田延行『すぐ使える体ほぐしの運動 136 選』（明治図書）
その他 特記事項	スポーツウエア・スポーツシューズを着用する。健康管理を行う。

科目名	PED114: 体育 B				担当教員	岸 秀忠
開講期	春/秋	開講時限	火 3 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-③
キーワード	スポーツ、ネット型、ゴール型、健康、身体構造					
授業の概要	この授業は、ボール操作を伴うネット型およびゴール型スポーツを中心とした実技授業である。健康づくりや運動の仕組み、各種目のルールを学び目的に応じた方法を理解することで、生涯にわたってスポーツや運動を親しむための資質や能力を育む。また、「体育理論 (ウエルネスと身体)」の講義内容と併せることで、自らの健康の維持および増進、生活習慣病に関する理解を深める。					
達成目標 (授業の目的)	スポーツをする上で重要となる種目の専門性に応じた競技特性を学び、スポーツおよび運動を通じて豊かなスポーツライフを継続するために必要な資質や能力を高める。また協同学習を通じてコミュニケーションスキルやリーダー&フォロワーシップの重要性を考え、創意工夫するとともに、運動技能の習熟にあわせてより優れた状態を目指すことを目的とする。					
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体調を管理して万全な状態で授業に臨み、周囲の環境に応じて行動をとることができる。 ・ 授業に対して目標や目的を明確にして学びを深めることができる。 ・ 健康づくりや運動のしくみ、各種目のルールを学び、目的に応じた方法を理解することができる。 ・ 運動技能の習熟とともに、より優れた状態を目指して努力することができる。 ・ 設定された課題を基に、自身の態度、行動、発言に加えて、自身のこころと身体の変化に関して振り返ることができる。 					
評価方法	①授業への積極的参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席態度、発言、円滑な授業運営に対する積極性 30% ・ 協調性 20% ②能力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能習得への向上心 15% ・ 技能習得への創意工夫 15% ③期末レポート 20%					
評価基準	①授業への積極的参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席態度、発言、円滑な授業運営に対する積極性 運動に適した服装で受講し、準備運動・整理体操を行い健康管理に努めることができる。また準備片付けなど円滑な授業運営に対し積極的に行動することができる。 ・ 協調性 仲間とのコミュニケーションやリーダー&フォロワーシップの重要性を考え行動することができる。 ②能力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能習得への向上心 運動技能の習熟とともにより優れた状態を目指して努力することができる。 ・ 技能習得への創意工夫 運動の仕組み、各種目のルールを学び、目的に応じた方法を理解し創意工夫することができる。 ③期末レポート 設定された課題を基に、自身の態度、行動、発言に加えて、自身のこころと身体の変化に関して振り返り自身の健康状態を客観的に捉え、考察することができる。					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンスおよびレクリエーション (授業内容、注意事項、評価基準の説明)	ペアワーク グループワーク	シラバスを理解し、配布資料で授業内容を復習する。
2	レクリエーションスポーツ① (頭と身体を動かす体づくり運動)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
3	レクリエーションスポーツ② (ロープジャンプ・アラカルト)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
4	バレーボール① 基礎技術の習得 (レシーブ、トス、サーブ)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
5	バレーボール② 基礎技術の習得 (サーブ、アタック)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
6	バレーボール③ ゲーム (戦術を立てる)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
7	フライングディスク① 基本投法の習得 (バックハンドスロー・フォアハンドスロー)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
8	フライングディスク② ゲーム (ガッツ・ディスクゴルフ)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
9	フライングディスク③ ゲーム (アルティメット)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
10	バスケットボール① 基本技術の習得 (パス・ドリブル・シュート)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
11	バスケットボール② 基本技術の習得 (複数人称の動きと戦術の理解)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
12	バスケットボール③ ゲーム (戦術を立てる)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
13	ポッチャ① (ルールの理解、基礎技術の習得)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、個人的に練習する。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ポッチャ② (ゲームの戦略を立てる)	ペアワーク グループワーク	授業内容を復習し、期末レポートを作成する。

テキスト	資料を適宜配布
参考書	東根明人『コーディネーション運動 ボール運動編』（明治図書） 池田延行『すぐ使える体ほぐしの運動 136 選』（明治図書）
その他 特記事項	スポーツウエア・スポーツシューズを着用する。健康管理を行う。